# フードバンクこども支援プロジェクト
# 子どもアンケート調査
# 報告書

2022年4月

認定 NPO 法人フードバンク山梨

この調査は「中核的フードバンクによる地域包括支援体制事業」の助成を受けています

# Ⅰ. 調査概要

## 1. 調査名称

認定 NPO 法人フードバンク山梨 子どもの学習・生活に関る調査

## 2. テーマ

食料支援を受けている子どもの学校／学校外での学習・生活に関する調査

## 3. 調査の目的

子どものいる世帯のコロナ禍における現在の状況を把握し、今後の支援につなげる。

## 4. 調査方法

郵送／Web による自記式質問紙調査

## 5. 調査時期

2021 年 12 月 20 日～2022 年 1 月 7 日

## 6. 調査対象

認定 NPO 法人フードバンク山梨から食料支援を受けている世帯の子ども
（配布数 1607　　回収数 280　　回収率 17.4%　）
小学校 147 人、中学校 94 人、高校 29 人、特別支援学校 1 人、不明 9 人
※各データの集計にあたっては、未記入、無効回答、特別支援、学校段階が不明のものを除いているので、個々の集計の総数間にズレがある。

## 7. 調査項目

1．回答者の属性
　性別/学校種・学年/きょうだいの数
2．学校から帰ってからの生活
　（1）勉強する場所
　（2）自宅以外の場所
　（3）勉強するときに困ること
　（4）困っていること
　（5）勉強するときの場所・物・人
3．学校での生活
　（1）楽しいかどうか
　（2）勉強がおもしろいか
　（3）勉強がわかるか
　（4）やりたいけれど実際にはできないこと
　（5）困ること、悩むこと
4．学校以外の生活
　（1）この一年に行った場所
　（2）この一年のイベント
　（3）話を聞いてもらえるか
5．大人や周りに言いたいこと

## 調査企画・分析・協力メンバー

〈調査企画・分析〉　清水そら(山梨大学教育学部 4 年次)
〈企画・分析協力〉　秋山麻実(山梨大学)　　高橋英児(山梨大学)
〈集　計　協　力〉　学生団体 Arabesque
〈調　査　実　施〉　認定 NPO 法人フードバンク山梨

# Ⅱ．考察

## 子どもたちの学習支援に向けて－FB 山梨の調査結果から

高橋英児（山梨大学）

本調査（「子どもの学習・生活に関する調査」）は、認定 NPO 法人フードバンク山梨が同法人の支援を受けている子ども対象に初めて行った調査であり、食糧支援を受けている経済的に困窮している家庭の子どもの学校及び放課後の生活および学習に関する現状を示す重要な基礎的データとなっている。ここでは、今回の調査結果から、経済的に困窮している家庭の子どもへの支援（特に学習）のあり方を考えていく上での課題等について指摘したい。なお、各質問項目に対する結果の詳細については、調査結果の概要および全体的考察を参照してほしい。

### １．今回の調査結果から読み取れること－学習資源の複合的剥奪状態

今回の調査結果からは、経済的困窮の中で子どもたちが抱えている生きづらさが読み取れる。これまで子どもの貧困研究では、貧困状態にある子どもの生きづらさの問題を「複合的剥奪のスコープ（領域）」と「重層的傷つきのシークエンス（連続）」の二つの側面から、子どもの発達の問題を捉えようとする岩川直樹の試みがある。

岩川によれば、〈複合的剥奪としての子どもの貧困〉とは、モノやカネがないという「物質的・経済的剥奪」、多数多様な人間や機関や活動のつながりといった「関係的・社会的剥奪」、本来その子どもが形成しうるはずの基本的信頼や自尊感情あるいは知識技能や学歴資格等を奪う「実存的・自己形成的剥奪」という三つの次元から成り、これら三つの次元における剥奪の相互連関によって、生活の規定をなす諸条件や諸関係や諸能力が複合的に剥奪される状態のことを意味する。そしてその結果、子どもたちは、多数多様な他者からの存在承認や十分な承認を受ける機会を奪われ、人生の様々な時期において自己形成の傷つきを抱えされられることになる。この状態が〈重層的傷つきとしての子どもの貧困〉であり、乳幼児期の恒常的不信・自尊剥奪という傷つき、学童期の他者からの阻害や孤立・能力剥奪という傷つき、青年期の社会的排除と無力感という傷つきが、ケアされないまま、いわば重層的に積み重なった状態にある（岩川直樹（2009）「子どもの貧困を軸にした社会の編み直し」子どもの貧困白書編集委員会編（2009）『子どもの貧困白書』明石書店）。

上記の視点に基づいて今回の調査結果を見ると、調査に協力してくれた子どもたちの多くが、複合的剥奪の状態にあるおそれがあることが伺える。具体的には、以下の点が挙げられる。

①「物質的・経済的剥奪」－学習をするための物的資源の欠如：特に、学習に取り組むための環境（静かに勉強できる場所や自分だけの机）については３～４人に１人が「ない」「足りない」と答え、「やまなし子どもの生活アンケート」（2018 年）の結果よりも多い。また、自分で学習を進めていくための教材・教具（参考書・問題集・ドリル、辞書等）については、３人に１人が「ない」「足りない」と答えている【問２（５）】。

②「関係的・社会的剥奪」－学習のため人的資源の欠如：分からないときや困ったときに聞ける人については約６人に１人が「ない」「足りない」と答え、学校段階が上がるにつれ割合が増える傾向が見られる【問２（５）】。
③「実存的・自己形成的剥奪」－本来身につけるべき学力の欠如：学校の勉強での困り感・悩みを約４人に１人が挙げており、多くが、学校の勉強が「わからない」「ついていけない」と訴えている【問３（５）】。また、学校以外の場所で、知識や能力を伸ばしたり、自分の興味や関心、知的好奇心を育んだり、自分の能力や可能性を伸ばしたりする機会が制限されているおそれもある【問４（１）】。

そして、これらの複合的な剥奪状態の中での「重層的傷つき」を抱えていることも自由記述から伺えた。特に、問３（５）の「困っていることや悩んでいること」および問５の「大人や周りに言いたいこと」の自由記述の中で、自己存在や自分の未来に対する否定的な感情、周りに対する不信感を抱えている様子が自由記述から見られた。自分の思いを周りに聴き取られたり、受け止められていないまま過ごしている子どもが少なからずいることにも注意が必要である。

## ２．今後の課題と可能性－子どもたちの学習権を保障し、自分の夢・幸福の実現を励ますために

以上を踏まえ、今後の学習支援のあり方について述べたい。

問２（３）の下校後に自分で勉強するときに困ることが「ある」と回答した子どもは、５人に１人であり、困っている内容は、①「わからない」こと、②部屋がないことやきょうだいがいるために集中できないこと、③教えてくれる人がいないこと、④（学習の）積み残しが起こっていること、の４点に分類された。

これらから、子どもたちの学習支援を考えていく際には、子どもへの直接的な学習支援として「わからないこと」「積み残し」への支援（物的支援、人的支援）（上記①④への対応）と、学習に安心して取り組めるような環境づくり（人間関係も含む）、の大きく２つを柱とした支援（上記②③への対応）を考えていく必要があると考える。これは、学校外の放課後の学習支援（例えば、学校外の場など）だけでなく、学校生活での支援、双方に共通するものである。

### （１）学校という場のもつ資源を活かす－学習支援の土台としての学校の可能性

子どもたちの学習支援では、まず、学校での支援の充実から考える必要がある。なぜなら、学ぶ環境や資源が不足している子どもであっても、学校という場に行けば、大人に見守られながら、環境や資源の不足を補えるような様々な教育機会や経験を保障されることが可能となるからである。事実、学校での生活および勉強について質問した問３（１）～（３）でも明らかになったように、友達の存在、教師の存在、学習の充実の３つの要因が、子どもたちの学校生活や勉強の支えとなっていた。学習支援の前提として、経済的困窮の中で困難や悩みを抱えている子どもを早期発見し、保護する場（非難基地）となるだけでなく、傷つきをケアし奪われたものを取り戻す場として学校を位置づけた上で、学校外も含めた支援体制・ネットワークを構想していく必要があるだろう。

したがって、食糧支援を受けている子どもたちの学習支援を考えていく際には、学習のために必要な物的資源の支援に留まらず、人的資源（大人との関係、友達との関係）の支援という観点から、まず、学校という場がもつ資源を活かすべきであろう。先の問３での子どもの回答の中には、教師との関係や授業が良好でないために、生活や勉強に困難を感じていることも読み取れたことを考えると、経済的に困窮している家庭の子どもが、学校で安心して「分からない」が言え、教師や友達に頼ることができることができるようにしていくことが必要であると考える。仮に勉強が分からないと感じている子どもであっても、学校での教師や友達による支援や交流など関係が充実していたり、授業での教師の指導の工夫（分かる授業・楽しい授業、学び合いのある授業など）があることによって、学校生活への参加や学習意欲が引き出されるからである。これは、経済的に困窮している子どもだけでなく、全ての子どもにとっても共通するもので、これからの学校づくりに不可欠な視点でもある。

上記のような学校という場が持つ資源を活かした学習支援の土台の上に、子どもたちが放課後に過ごすことのできる学校以外の場（学童やデイケア、居場所となるような自由に過ごせる場所）の構築・整備を今後検討していく必要があると考える。

### （２）「自分でやろうとする」学びの意欲を育てるために

経済的困窮の中で、複合的な剥奪状態にさらされ、重層的な傷つきを抱え、現在と未来への希望を持てないでいる子どもは少なくないことが多くの調査で指摘されている。今回の調査でも、そのような状態を伺わせる子どもの存在が少数ながら見られた。このような子どもたちの存在を念頭に、学習に必要な資源（物的資源、人的資源など）の支援は、自分の意志と力で、自分が置かれた生活現実と対峙しようとする意欲、「自分でやろうとする」意欲を子どもたちの中に育むことへとつなげることを重視する必要があると考える。

この「自分でやろうとする」意欲は、①本人の生活や発達に関わる「要求」「願い」「必要」、②自身の発達要求を膨らませ、それの実現を励まし支える他者の存在（豊かな依存関係）、③「願い」「必要」「要求」を実現するための「見通し」（自分の力で要求を実現しようとする自由の保障）によって生まれるとの指摘がある（山本敏郎「生活指導の原理」山本敏郎・藤井啓之・高橋英児・福田敦志『新しい時代の生活指導』有斐閣、2014）。

この指摘は、今後の学習支援のあり方を考えていく上で示唆に富む。特に、経済的な困窮の中で、その困難を周りに訴えられない子どもたちが多くいることが考えられるため、「豊かな依存関係」を学校内外に構築していくことが、学習支援体制を築く上で特に重要になると考える。貧困が「自己責任」とされる傾向が強い今日の社会だからこそ、子どもたちには、自分のことを気にかけてくれ、悩みや不安、傷つきを聴き取ってくれる他者が存在し、安心して甘えたり、頼ってたりしてよいことを学習支援を通して実感させていくことを重視すべきだろう。そして、そうした支援を通して、子どもたちは、奪われた自分の尊厳を回復し、自分の夢や希望を育み、その実現に向けて自分が生きている現実と対峙しようとする意欲を取り戻していけるのではないかと考える。

豊かな依存関係については、学校だけでなく、放課後の学習支援のための場づくりなど学校外にも広げていくことが重要であろう。その意味で、現在、県内で行政やNPOが主催している学習支援や放課後の居場所づくり（子ども食堂等も含む）の取り組みのネットワーク化を進めていくことが今後一層求められると考える。

# 雑　感

山梨大学教育学部４年次　清水そら

## 放課後過ごす場所について

問2(1)の結果から、全体の約81%の子どもが下校後、自宅で過ごしていることがわかる。
特に中学生では約90%、高校生では約87%が自宅で過ごしていることがわかる。
このことから、**学童等のサービスが利用できなくなる中学生以降の子どもは、学校と自宅以外での居場所がほとんどない**ことがうかがえる。

子どもたちの抱える困難さは複雑かつ多様であり、学校や家庭だけでは解決が難しいものも少なくない。
また、学校や家庭が困難さを生む要因になることも珍しくない。
そのような状況の中で、**学校でも家でもない居場所が子どもたちには必要**であると考える。
学校の先生や友達、家族には話しにくいことを安心して話せる人、誰かの評価を気にすることなく過ごせる場所は、子どもの育ちに必要なのである。
近づこうと思えば近づけるし、離れようと思えば離れられる。
このような関係が成り立つ場所こそ、子どもたちの育ちには必要なのではないかと思う。

## 学習を進めるために必要な資源について

学習に不可欠である文房具については、ほとんどの子どもが「ある」と回答している。一方で、全体で９名の子どもが「ない」「足りない」と回答している。
人数としては少ないものの、**学習に必要な文房具がない、もしくは足りないという状況にある子どもが存在することは大きな問題**であると思われる。

## 学校生活でやりたいと思うけれどできないことについて

問3(4)「やりたいと思うけれどできないこと」の中で、「使いたい文房具を使う」、「新しい制服・体育着を着る」を選択した子どもの自由記述を見ると、「習字道具とか絵具道具が買ってもらえなかった」や「裁縫セットが買えない」、「おさがりで何回も直してあるあとがあるから」などの回答があった。
このような問題に対して、制服や体育着、その他学用品のリユース活動が山梨県内でも徐々に広がり始めている。
これらは経済的な負担を軽減させるものであり、意義深い活動である。
しかし一方で、みんなと同じものが買えない、自分だけ新しいものを使えないなどの状況は、子どもの中に「満たされない」という感覚を抱かせうる。
そのため、物質的に満たされていることと心理的に満たされていることには大きな隔たりがある点には注意したい。

これに加えて、**山梨県では令和4年度入学の高校生から、ICT端末を自費購入することが決められた。同県が推奨する端末は56,800円**であり、入学時にかかる制服や体育着、教科書などの費用に加えて**かなり大きな経済負担が各家庭にかかることになった。**
同県では、これに対して端末購入支援給付金という制度を設けているが、対象家庭は生活保護受給世帯や保護者全員の県民税所得割及び市町村民税所得割が非課税世帯に限定されており、フードバンク山梨から食糧支援を受けている相当数の家庭がこの対象にならないことが予想される。
本アンケートから読み取れる子どもの状況に鑑みると、**支援対象の拡大は急務**であると言える。

## 最後に

今回の調査を通じて、貧困状態にある子どもたちの状況が量的、質的に見えてきた。
このような子どもの育ちを支えるためには、**食料支援にとどまらずより重層的な支援が求められる。**
その一つとして**学習支援**が挙げられる。
学習支援は、山梨県内でも複数の地域で実施されている。

私自身も学生団体Arabesqueの代表として、日々子どもの学習支援に取り組んでいる。
その経験から学習支援に関して伝えたいことがある。
それは、**学習支援において最も大切なことは“勉強を教えること”ではなく、“学びに向かう意欲を回復させること”である**ということである。
単に学校の勉強を教えること、そして勉強ができるようになること、これらが学習支援ではない。
**最も必要なことは、学びに向かう意欲や自己肯定感、自己効力感を回復させる場を提供すること**である。
そして意欲が回復された先に、学びの一つの選択肢として学校の勉強がまっているのだと私は考えている。
学校の勉強を教えるという文字通りの学習支援だけではなく、**子ども一人ひとりに寄り添い、学ぶ意欲を回復させることができるような学習支援が広まることを期待したい。**

# Ⅲ．調査結果

## 本調査の特徴について

本調査は、フードバンク山梨の支援を受けている子どもたちの学習に関する状況を把握し、彼らの学習権保障のための適切な支援を提言していくことを目的として実施したものである。これまでフードバンク山梨では、生活困窮世帯や教員など大人を対象にしてきた調査を行ってきているが、今回の調査は、子どもを対象にした最初の調査という特徴がある。

本調査の項目は、フードバンク山梨の米山理事長、城野副理事長の依頼を受けた清水そら君に山梨大学教育学部の秋山麻実教授と高橋が協力する形で構想している。本調査では、他の自治体での調査（「剥奪指標」）も参考にしながら、子どもの学習面に限定し、学習支援の手立てを構想すしやすいように質問項目を限定している。各自治体等が行っている子どもの貧困に関する調査では、調査の目的に応じて、選択される剥奪指標の項目は多様であり、総合的かつ網羅的な調査から質問項目を限定した調査まで多岐にわたる。

本調査では、子どもを対象にした最初の調査ということもあり、上述のように学習支援につなげることに目的を限定して行うこととし、かつ子どもたちが回答しやすいように調査内容を厳選している（A４用紙４ページ分）。質問紙（調査票）は、本人の属性（性別、校種・学年、きょうだいの有無）、「放課後の生活と学習」「学校生活」「学校外の経験」「大人たちにいいたいこと」の５つからなり、「放課後の生活と学習」「学校生活」「学校以外の生活（学習機会）」それぞれの領域について質問を行い、特に子どもたちの学習に関わる問題を明らかにしようとした。

上記のような本調査の独自性があるため、調査項目の結果について他の調査結果と比較することが難しい面があり、以下の分析（考察）では、可能な範囲で、本県の「やまなし子どもの生活アンケート」（2018年）に言及するにとどまっている。今後、本調査を契機として、支援が必要な子どもを対象とした調査を継続的に行っていくことで、実態を明らかにし、対処すべき課題や問題がより明確されていくことが期待される。

# Ⅰ．回答者の属性

## 【性別】

| | 男 | 女 | 答えたくない | 未回答 |
|---|---|---|---|---|
| 性別 | 125 | 134 | 8 | 13 |

## 【学校種】

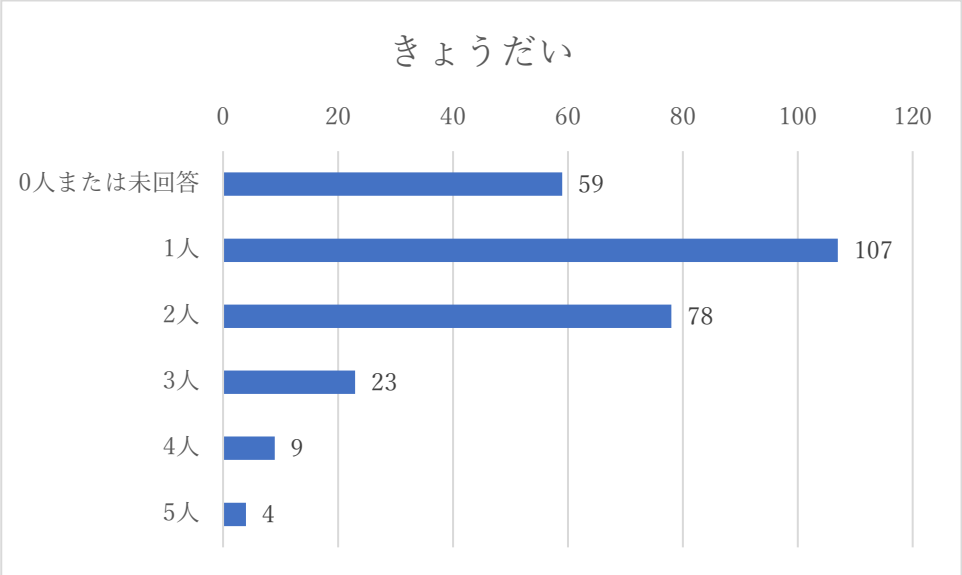
| | 小学生 | 中学生 | 高校生 | 特別支援学校 | 未回答 |
|---|---|---|---|---|---|
| 学校種 | 147 | 94 | 29 | 1 | 9 |

## 【学年別】

| | 小1 | 小2 | 小3 | 小4 | 小5 | 小6 | 中1 | 中2 | 中3 | 高1 | 高2 | 高3 | 特5 | 未回答 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学年 | 11 | 14 | 27 | 15 | 26 | 30 | 30 | 24 | 29 | 11 | 4 | 14 | 1 | 49 |

## 【一緒に生活しているきょうだいの人数】

| | 0人または未回答 | 1人 | 2人 | 3人 | 4人 | 5人 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| きょうだい | 59 | 107 | 78 | 23 | 9 | 4 |




〈回答者の属性〉

本調査に回答した子どもは、280 名であった。学校段階ごとに見ると、小学校 147 名、中学校 94 名、高校 29 名、特別支援学校 1 名、不明 9 名であり、性別の内訳は、男子 125 名、女子 134 名、答えたくない 8 名、未回答 13 名であった。回答者では、小学校が最も多く、特に高学年が多かった。

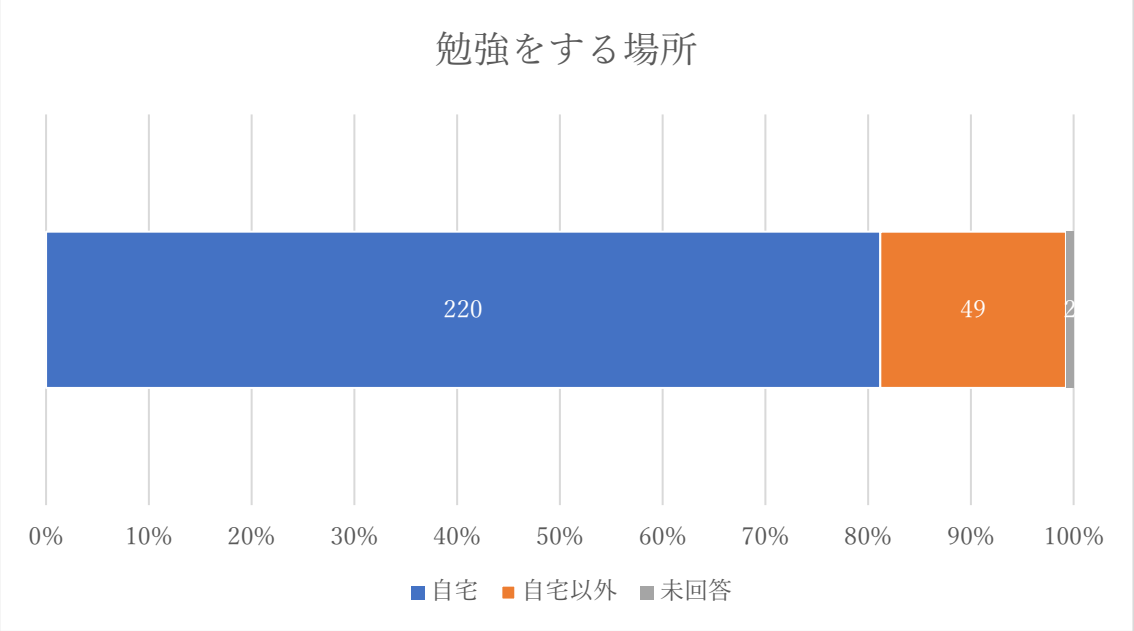
また、一緒に生活しているきょうだいの人数では、約 8 割がきょうだいがおり、自分以外に 1 人が 107 名、2 人が 78 名、3 人が 23 名、4 人が 9 名、5 人が 4 名であった。

## ２．学校から帰ってからの生活

### （１）勉強する場所

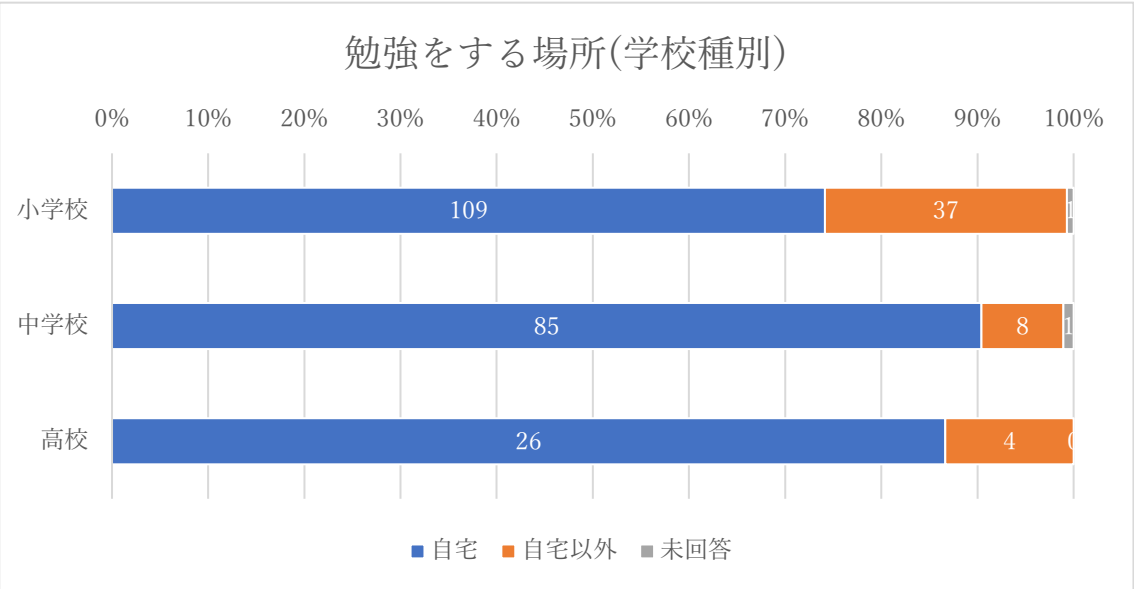
**・全体**

| | 自宅 | 自宅以外 | 未回答 | 合計 |
|---|---|---|---|---|
| 勉強する場所 | 220 | 49 | 2 | 271 |



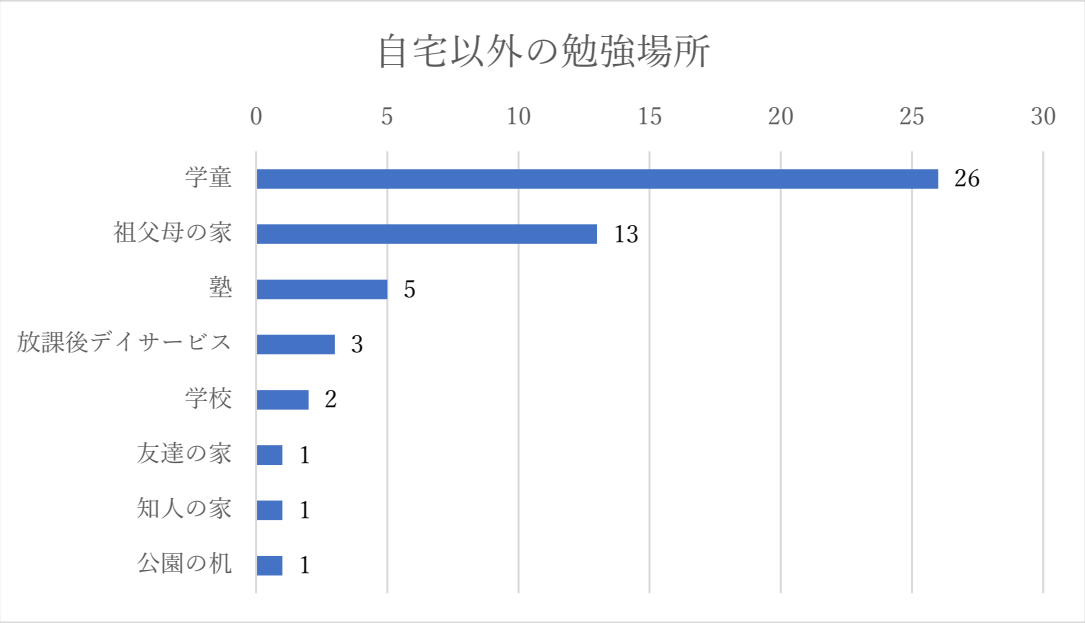

**・学校種別（ただし、特別支援学校及び学校段階未記入は除く）**

| | 自宅 | 自宅以外 | 未回答 | 合計 |
|---|---|---|---|---|
| 小学校 | 109 | 37 | 1 | 147 |
| 中学校 | 85 | 8 | 1 | 94 |
| 高校 | 26 | 4 | 0 | 30 |
| 合計 | 220 | 49 | 2 | 271 |



## （２）自宅以外の場所について（複数回答可）

| 学童 | 祖父母の家 | 塾 | 放課後デイサービス | 学校 | 友達の家 | 知人の家 | 公園の机 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 26 | 13 | 5 | 3 | 2 | 1 | 1 | 1 |



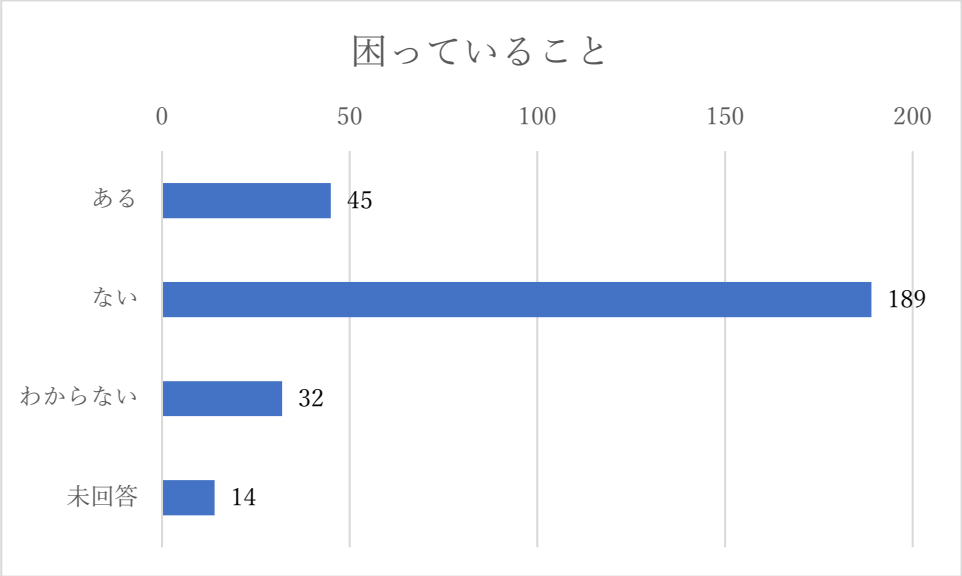

〈放課後過ごす場所〉

問２（１）では、帰宅（下校）後の子どもたちの多くは自宅で過ごしており（全体で約８１％）、それ以外では学童などの公的サービス、祖父母宅などの親族宅などで過ごしている。自宅については、子どもたちだけで過ごしているのか、大人もそこにいるのかといった点は不明であるが、学校以外で「いることができる場所」があることが分かる。しかし、１名ではあるが、「友達の家、公園の机」と回答をした子ども（中学生）もおり、居場所がない子どもが存在することに注意する必要がある。

## （３）勉強するときに困ること

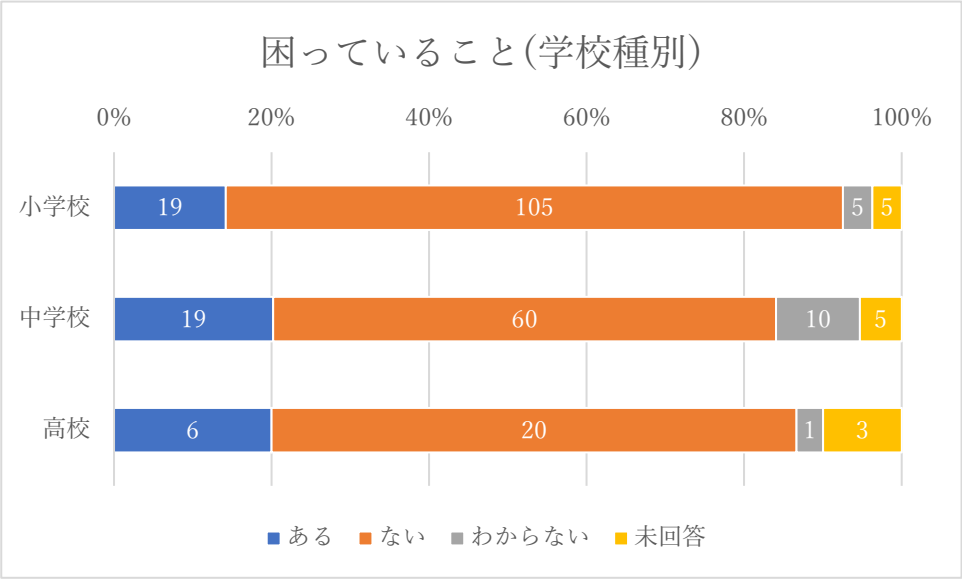
### ・全体

| | ある | ない | わからない | 未回答 |
|---|---|---|---|---|
| 人数 | 45 | 189 | 32 | 14 |




**・学校種別（ただし、特別支援学校及び学校段階未記入は除く）**

| | 小学校 | 中学校 | 高校 | 合計 |
|---|---|---|---|---|
| ある | 19 | 19 | 6 | 44 |
| ない | 105 | 60 | 20 | 185 |
| わからない | 5 | 10 | 1 | 16 |
| 未回答 | 5 | 5 | 3 | 13 |
| 合計 | 134 | 94 | 30 | 258 |



## （4）困っていること（抜粋）

**〇学校種未記入**
**お姉ちゃんがイライラしてあっちいてって。**

**〇小学校**
**勉強がわからない。**
**集中ができなくて、宿題が進まない。**
**問題が解けないとき。**
**算数がわからない**
**宿題が日によってはかなり多い。**
**計算にいつも困っている。**
**漢字わからない。**
**最初に教えてもらった授業の内容がわからない。**
**分からないところを残しちゃうから**
**調べ物が家でないとできないから、お母さんが帰ってきてからになってしまうため寝るのが遅くなってしまう。**

**〇中学校**
**わからない問題があるときに一人で解けなくて困る。学校に行くのが嫌だったり、教室で授業を受けられないときもあり、授業に追いつけなくなったりしてどうしたらいいのかわからない。**
**わからない問題があって先に進まない**
**英語・社会・理科の点数が上がらない。数学の計算、図形が苦手。**
**自分に合った勉強法がわからない**
**集中力がすぐ切れること**
**やるきがでない。(そもそも宿題とか、なにか追いつめるようなことがあるからやるきがだせないし好きなことも、自由にすることもできないストレスがたまって大人になってもけっきょくじぶんのじっせきしかみない…個性を大切にして生きているのにそんなことみていてくれない…けっきょくべんきょうができる人がいいんだ)**
**自分の部屋がなく、集中できない。**
**落ちついてできない兄弟がいるため**
**わからない問題があった時 聞ける人が いない。**

**〇高校**
**自分の部屋がないのでうるさい**
**英語の長文**
**充分な時間がとれない**
**何をすればいいかわからない。**
**教えてもらう人がいない。家の手伝いで、勉強する時間が減る。**

〈帰ってきてから勉強することの困り感〉

問２（３）では、上記の場所で子どもたちが下校後に勉強をするときに、５人に１人の子ども（全体で 16%）は困ることが「ある」と回答している。そのうち、小学生は 14%（19 名）、中学生 20%（19

名）、高校生 20%（6 名）となっており、学校段階が上がるにつれて困っている子どもの割合が高くなっている（カッコ内の%は、当該の学校段階での割合を意味する。以下同じ）。

具体的に困っている内容（自由記述）の傾向は、調査結果においても指摘しているように、①「わからない」こと　②部屋がないことやきょうだいがいるために集中できないこと　③教えてくれる人がいないこと　④（学習の）積み残しが起こっていること、の４点が挙げられる。

特に１点目の「わからない」ことについては、小学校では、具体的な教科の困り感の他、「漢字「計算」「最初に教えてもらった授業の内容が分からない」など基礎的な内容が分からなくて困っているという記述が多い。これに対して、中学校及び高校では、小学校のように具体的な教科や基礎的な内容がわからないという回答だけでなく、わからない内容や問題をひとりで解決できないことへの困り感やひとりで学習を進めていくための時間や場所のなさ、学習意欲（やる気、集中力など）がわかないこと、支援の不十分さなどの記述もなされている。

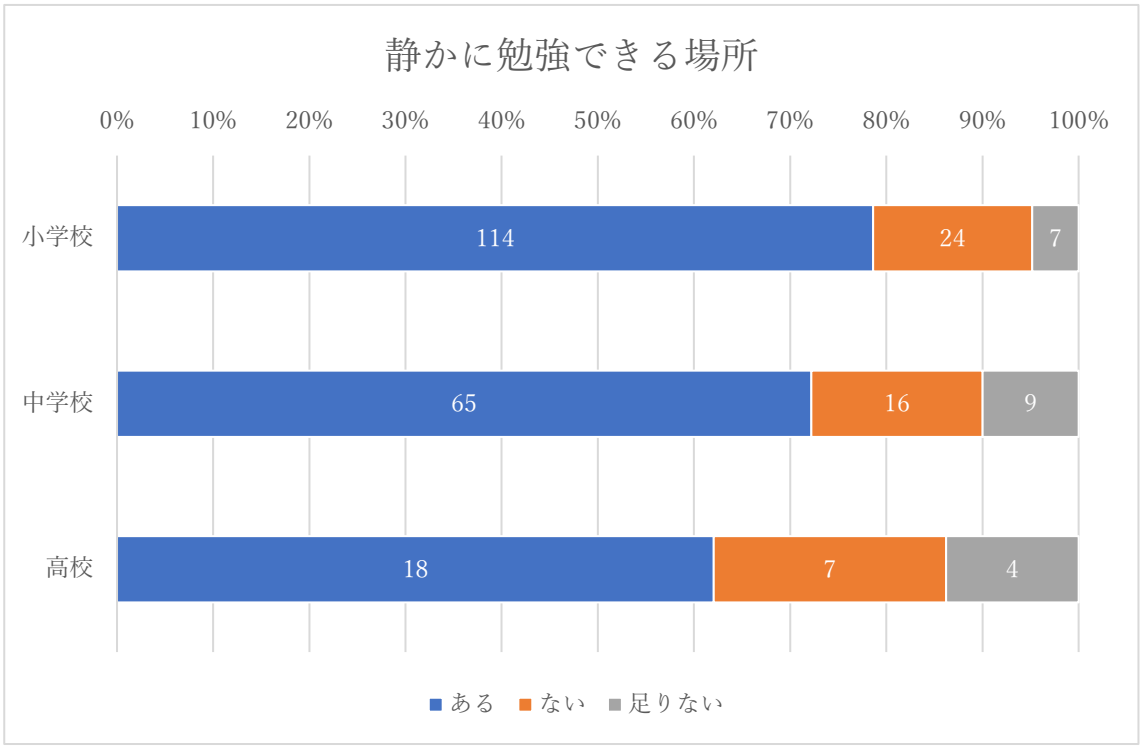
また、こうした学習内容が分からないことが積み重なっていくことで、４点目の「（学習の）積み残しが起こっていること」も記述からは想定された。例えば、「最初に教えてもらった授業の内容がわからない」（小学校）や「わからない問題があって先に進まない」（中学校）などである。さらに、学校段階が上がるに従って、「自分に合った勉強法が分からない」（中学校）や「何をすれば良いか分からない」（高校）など、分からないことが積み重なっていく中で、学習そのものをどうすすめていけば良いかが分からない状態にあることも伺えた。

学校段階が上がるにつれ、学習のわからなさだけでなく、学習に取り組むための環境や支援の不足の指摘もあり、これらが積み重なって、学習意欲や学習に取り組む姿勢（やる気、集中力など）に深刻な影響を与えていることが考えられる。

## （５）勉強するときの場所・物・人（「ある」「ない」「足りない」）

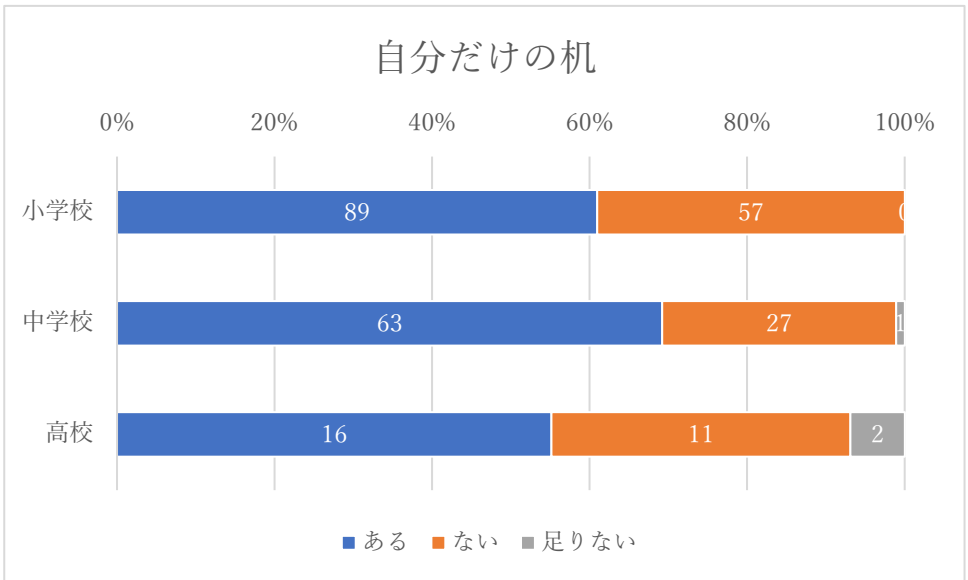
### ア．静かに勉強できる場所

| | 小学校 | 中学校 | 高校 | 合計 |
|---|---|---|---|---|
| ある | 114 | 65 | 18 | 197 |
| ない | 24 | 16 | 7 | 47 |
| 足りない | 7 | 9 | 4 | 20 |
| 合計 | 145 | 90 | 29 | 264 |



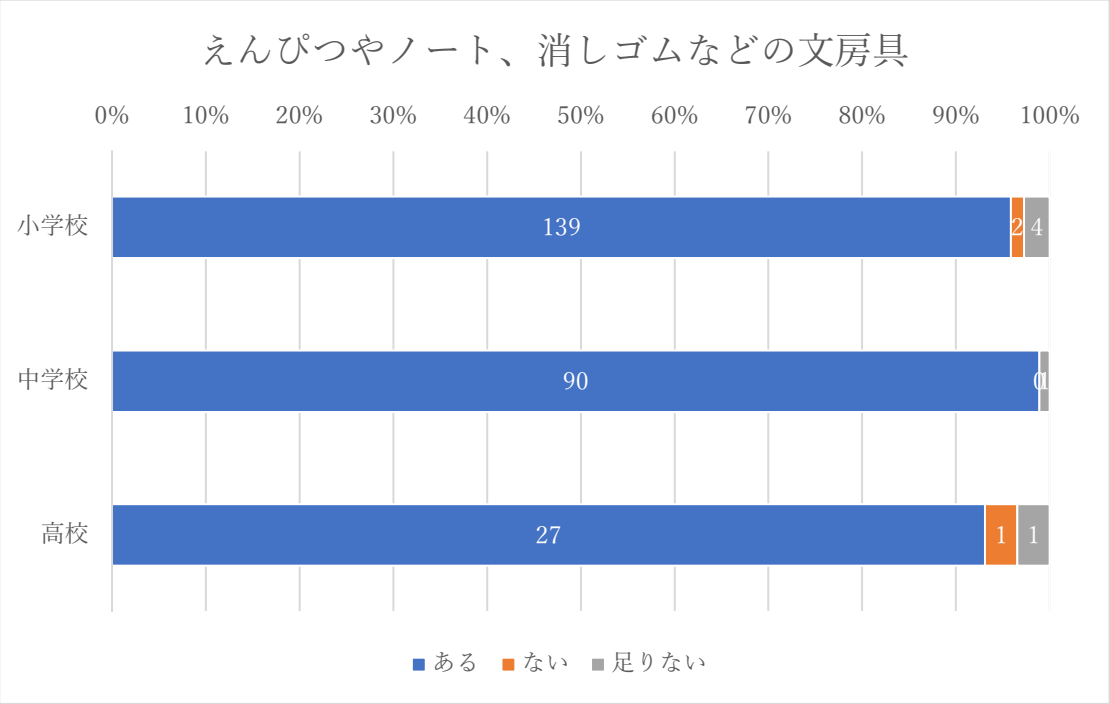

## イ．自分だけの机

| | 小学校 | 中学校 | 高校 | 合計 |
|---|---|---|---|---|
| ある | 89 | 63 | 16 | 168 |
| ない | 57 | 27 | 11 | 95 |
| 足りない | 0 | 1 | 2 | 3 |
| 合計 | 146 | 91 | 29 | 266 |



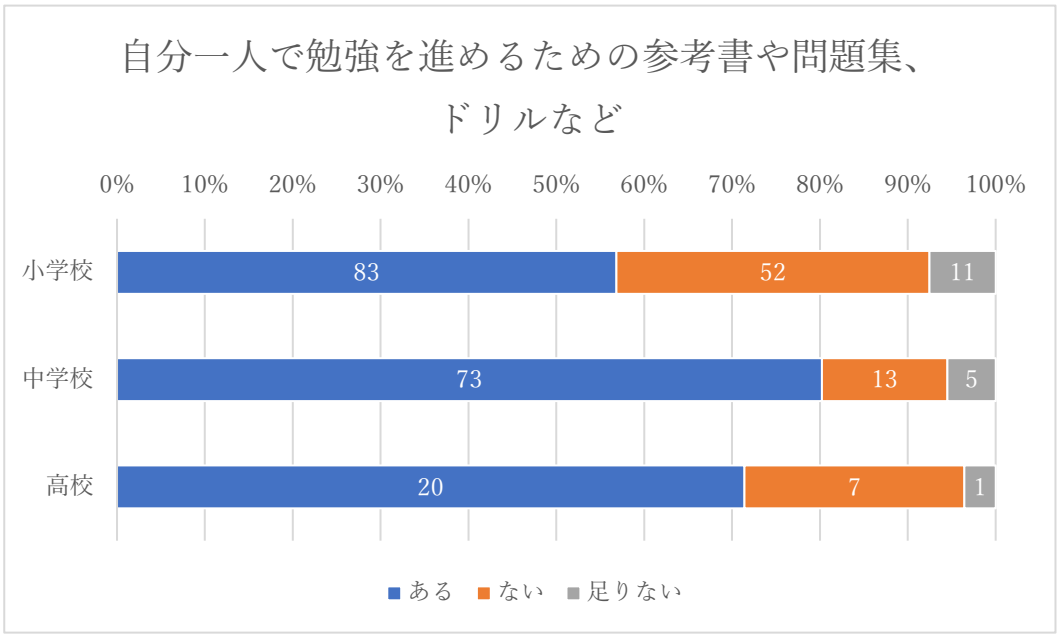
## ウ．えんぴつやノート、消けしゴムなどの文房具

| | 小学校 | 中学校 | 高校 | 合計 |
|---|---|---|---|---|
| ある | 139 | 90 | 27 | 256 |
| ない | 2 | 0 | 1 | 3 |
| 足りない | 4 | 1 | 1 | 6 |
| 合計 | 145 | 91 | 29 | 265 |



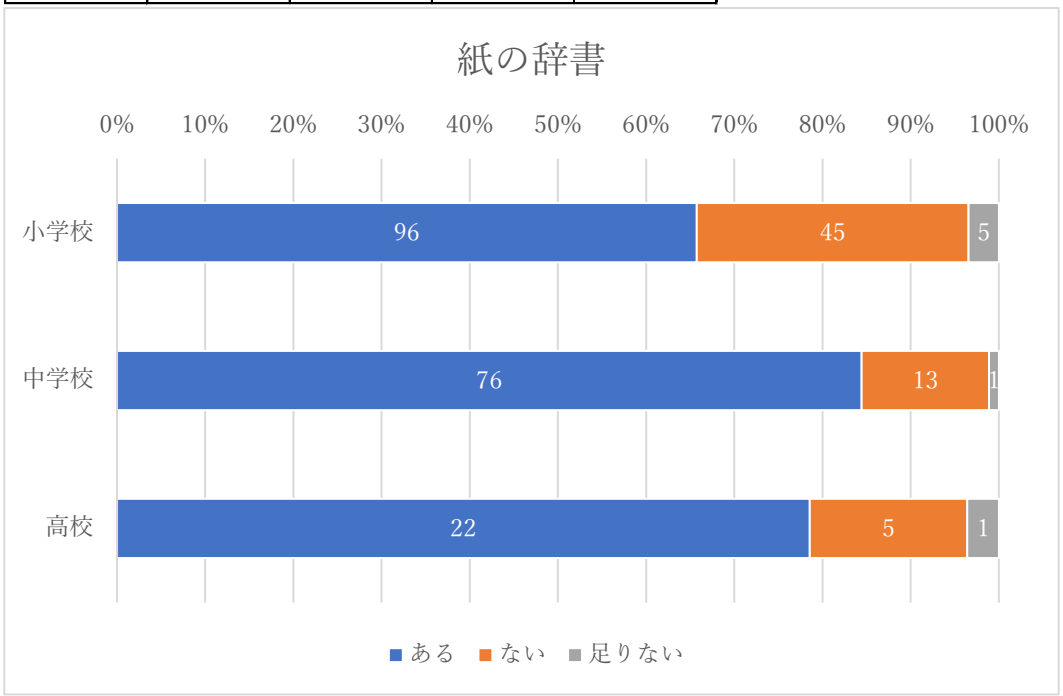

## エ．自分一人で勉強をすめるための参考書や問題集、ドリルなど

| | 小学校 | 中学校 | 高校 | 合計 |
|---|---|---|---|---|
| ある | 83 | 73 | 20 | 176 |
| ない | 52 | 13 | 7 | 72 |
| 足りない | 11 | 5 | 1 | 17 |
| 合計 | 146 | 91 | 28 | 265 |



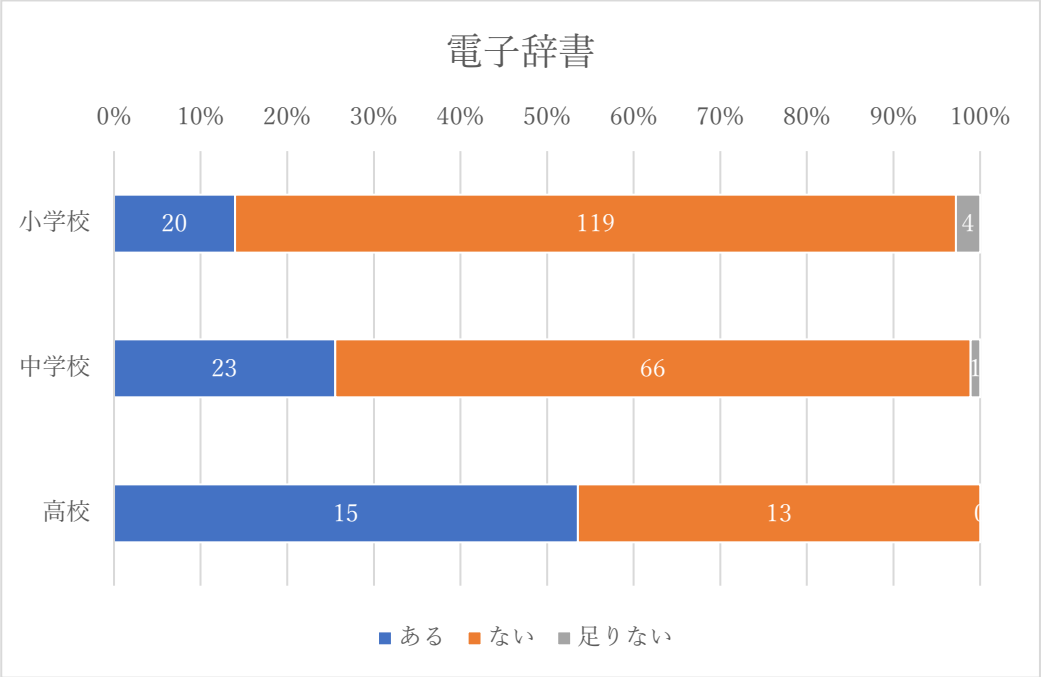

## オ．紙の辞書

| | 小学校 | 中学校 | 高校 | 合計 |
|---|---|---|---|---|
| ある | 96 | 76 | 22 | 194 |
| ない | 45 | 13 | 5 | 63 |
| 足りない | 5 | 1 | 1 | 7 |
| 合計 | 146 | 90 | 28 | 264 |



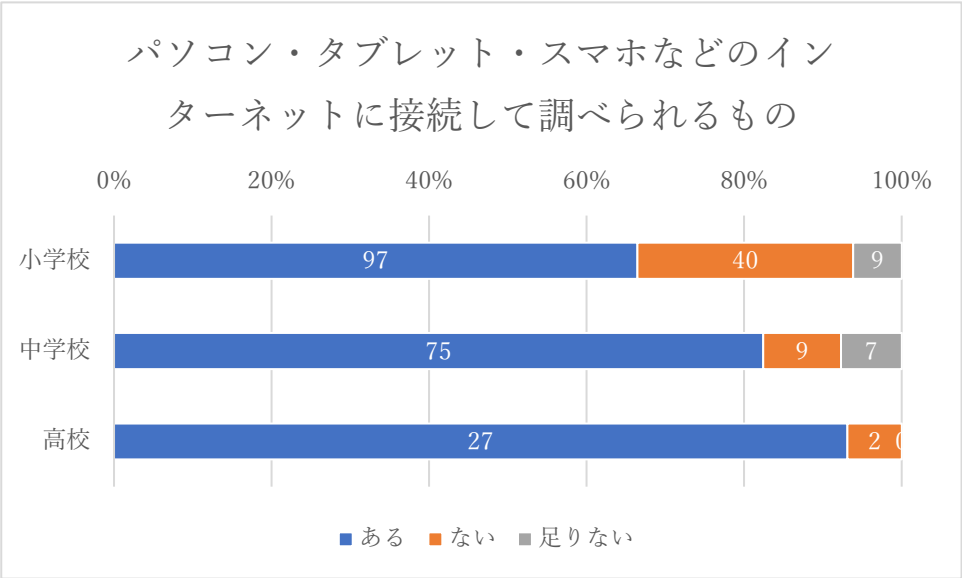
## カ．電子辞書

| | 小学校 | 中学校 | 高校 | 合計 |
|---|---|---|---|---|
| ある | 20 | 23 | 15 | 58 |
| ない | 119 | 66 | 13 | 198 |
| 足りない | 4 | 1 | 0 | 5 |
| 合計 | 143 | 90 | 28 | 261 |



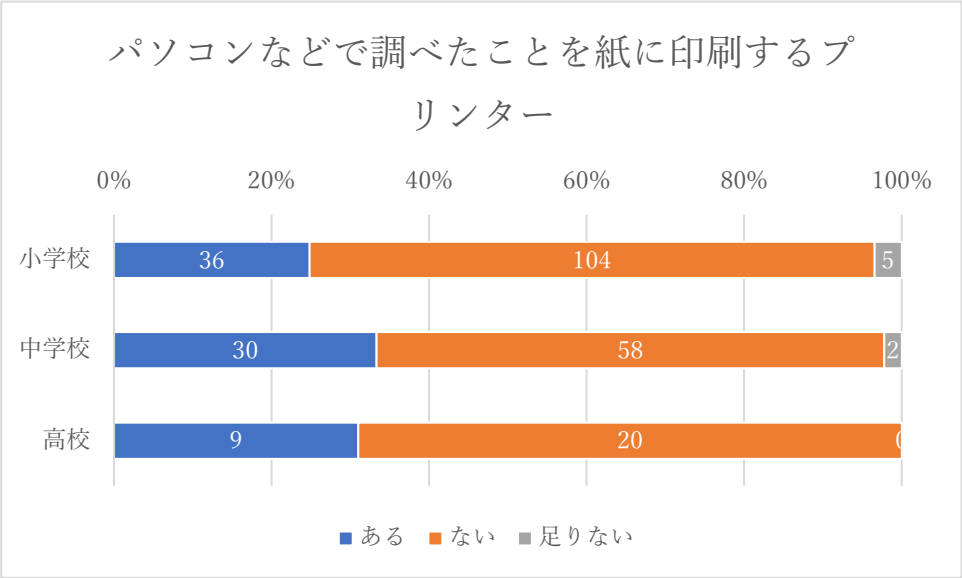

## キ．パソコン・タブレット・スマホなどのインターネットに接続して調べられるもの

| | 小学校 | 中学校 | 高校 | 合計 |
|---|---|---|---|---|
| ある | 97 | 75 | 27 | 199 |
| ない | 40 | 9 | 2 | 51 |
| 足りない | 9 | 7 | 0 | 16 |
| 合計 | 146 | 91 | 29 | 266 |



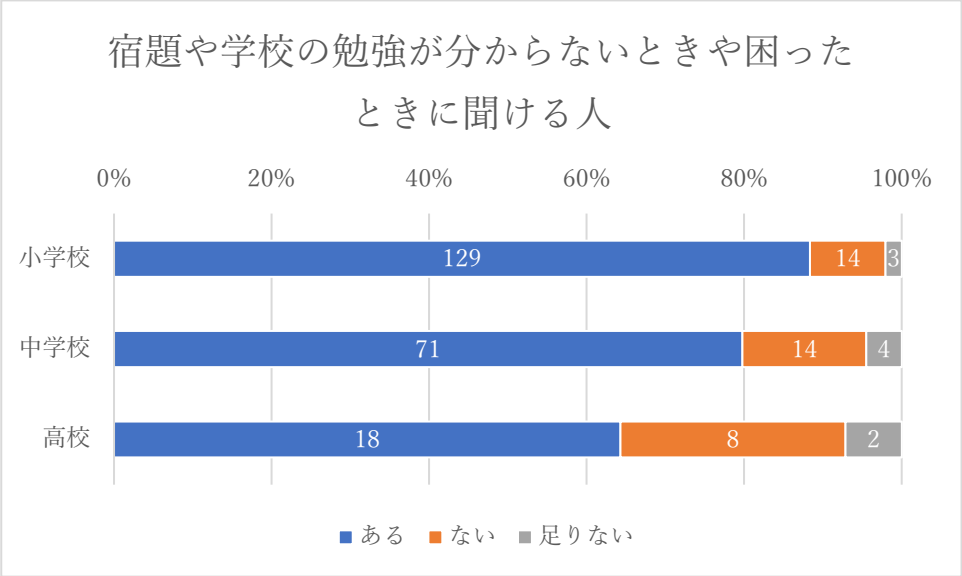

## ク．パソコンなどで調べたことを紙に印刷するプリンター

| | 小学校 | 中学校 | 高校 | 合計 |
|---|---|---|---|---|
| ある | 36 | 30 | 9 | 75 |
| ない | 104 | 58 | 20 | 182 |
| 足りない | 5 | 2 | 0 | 7 |
| 合計 | 145 | 90 | 29 | 264 |



## ケ．宿題や学校の勉強で分からないときや困ったときに聞ける人（おうちの人、他の大人やきょうだい、友達だちなど）

| | 小学校 | 中学校 | 高校 | 合計 |
|---|---|---|---|---|
| ある | 129 | 71 | 18 | 218 |
| ない | 14 | 14 | 8 | 36 |
| 足りない | 3 | 4 | 2 | 9 |
| 合計 | 146 | 89 | 28 | 263 |




〈学習をするために必要な資源〉

問２（５）では、下校後に勉強するときに不足している学習資源について聞いている。物的資源（部屋などの場所、文房具・問題集・辞書・パソコンなどの学習用具等）と人的資源（分からないときに教えてくれる人の存在）という観点から、子どもたちの現状を見ると、以下の傾向が見いだせる。

①学習に取り組むための環境については、「静かに勉強できる場所」が「ない」「足りない」と回答したのは全体で 25.4%（67 名）（小学校 21.3%／31 名、中学校 27.8%／25 名、高校 37.9%／11 名）、「自分だけの机」が「ない」「足りない」と回答したのは全体で 36.7%（98 名）（小学校 39.0%／57 名、中学校 30.1%／28 名、高校 4.8%／13 名）であった。この数値については、似たような項目を調査した「やまなし子どもの生活アンケート」（2018 年）の調査結果と比較してみたい。「やまなし子どもの生活アンケート」では、「自宅で宿題ができる場所」を「ある」と回答したのは、全体で 93.9%、貧困線に満たない子どもで 89.6%、また、自分専用の勉強机が「ある」と答えたのは全体で 85.5%、貧困線に満たない子どもで 79.7%であった。これらの結果と比べると、今回の調査

で回答した子どもたちの方が、「自宅で宿題ができる場所」「自分専用の勉強机」の所持率が低い傾向にある。

②学習に不可欠な文房具は、ほとんどの子どもが「ある」と回答しており、最低限必要な道具はあることが分かる。しかし一方で、「ない」「足りない」と回答した子どもは、小学校 4.1%（6 名）、中学校 1.1%（1 名）、高校 6.9%（2 名）いることにも注意が必要であると考えられる。

③ひとりで学習を進めていくための「参考書や問題集、ドリルなど」「辞書（紙、電子）」、「パソコン・タブレット」／「プリンター」については、小学生が「ない」「足りない」と回答する割合が、中学校・高校と比べて高い傾向にある。中学校や高校は、学習内容の難易度等も考えると、小学校よりも所持率が高いと考えられる。

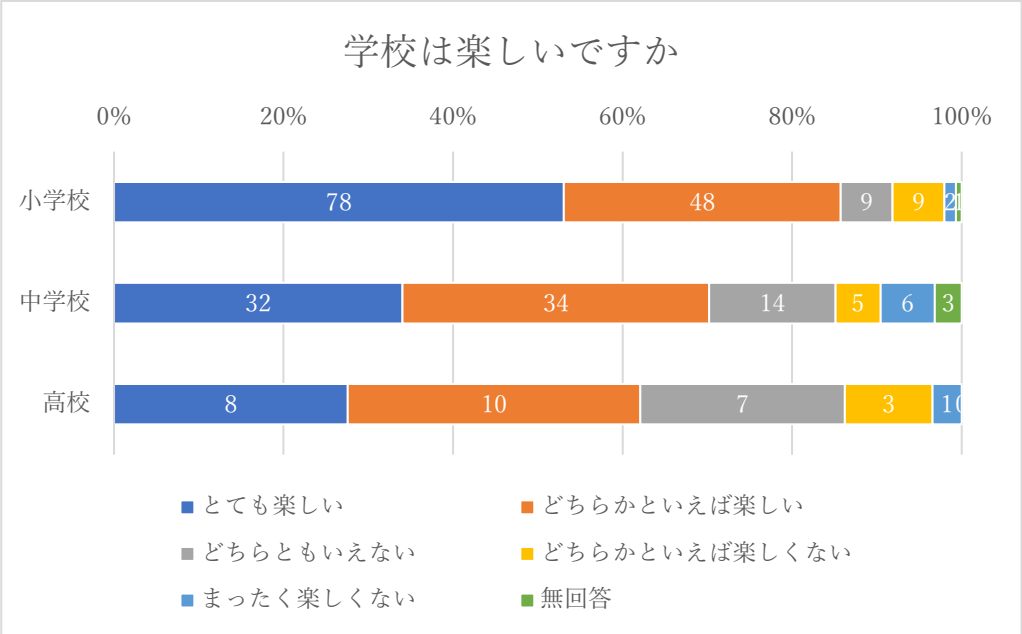
④「パソコン・タブレット」などインターネットに接続して調べるためのものの所持率は全体で 75%であり、辞書や参考書類の所持率に比べると、高い傾向にある。インターネットに接続できる機器の所持率と比べると、調べたことや情報を後で読んだり、残したりするための「プリンター」の所持率は全体で 28.4%と半分にも満たない。

⑤調査結果でも述べているように、「自分一人で勉強をするための参考書や問題集、ドリルなど」「紙の辞書」「電子辞書」という一人で勉強をするための道具が３つとも「ない」もしくは「足りない」と答えた子どもは、全体で 41 名であった。「参考書、問題集、ドリル」だけが「ある」と答えた子どもは 28 名、「紙の辞書」だけが「ある」と答えた子どもは 41 名、「電子辞書」だけが「ある」と答えた子どもは２名であった。これらの子どもは、自分で学習を進めていくための物的な資源の不足によって、自分で学習をする力を身に付ける機会が制限されている可能性が考えられる。

⑥「宿題や学校の勉強で分からないときや困ったときに聞ける人」が「ない」「足りない」と答えたのは、全体で 17.1%（45 名）であった。内訳を見ると、小学校 17%（17 名）、中学校 20.2%（18 名）、高校 35.7%（10 名）となっており、学校段階が上がるにつれ、自宅での学習の際に困ったときに聞ける人が「ない」「足りない」の割合が増える傾向が見られた。なお、「やまなし子どもの生活アンケート」で「勉強を教えてもらう人」が「いない」と回答したのは全体で３%、貧困線に満たない子どもで 4.9%となっており、本調査の方が高い。これは、本調査では下校後の学習でのことを質問しているためであると考えられる。また、高校が特に高いのは、問４（１）の今年一年の間に行った場所で「塾」を挙げた高校生が０名（小学校５名、中学校 21 名）とも関連していると考えられる。

## ３．今のあなたの学校での生活について教えてください。

### （１）学校は楽しいか




### 【理由】

#### 小学校

**「とても楽しい」**
先生が優しいから
友達と遊べたり会ったりできるから。
色々なことを知れる。
学習がわかると楽しいから。
みんなと一緒に勉強できるから。
友達と話しているといい気持ちになったり楽しく生活できるから。
図工とかがあって楽しい
いろいろなことを体験させてくれるから。（フリースクール）
先生が面白いから。
サッカーやいろいろな遊びをしているとき楽しいと感じられるから。
図書室で本を借りたり、読めたりするから
こまっているときに助けてくれるし問題やわからないところを助け合う学校だからです
友達がいると困っていることを相談できるから。

**「どちらかといえば楽しい」**
仲の良い友達はいるけど性格の合わない人がいる
楽しいけど、行くのがめんどくさい
友達と話をしたり遊んだりすることが楽しいけど、勉強が面倒（特に算数プリント）。
行事とかある日とかは楽しい
勉強はきらいだけど、友達と遊ぶのが楽しいから
分からない問題がなければ楽しい
給食とお昼休みが楽しいから

**「どちらともいえない」**
自分がやりたいことがいえないから
友達とけんかするときがあるから

**「どちらかといえば楽しくない」**
自分のいるクラスがうるさいから。
同級生の存在が怖い。何を考えているのかわからない。突然冷たいことを言われる。言われたことがあり、不登校になっている。
仲のいい友達と話しているときは楽しいけどたまにクラスの男子に悪口をいわれるから。
先生が誰かに怒ってたら皆に八つ当たりをするから。
意地悪されるから。

**「まったく楽しくない」**
すごくいじめられる。

## 中学校

**「とても楽しい」**
授業も友達といるときもずっと楽しいから。
友達がたくさんいるから
友達と喋れるから
部活が楽しいから、友達と話せるから

**「どちらかといえば楽しい」**
学校はめんどくさいけど友達と話しているときは楽しいから。
何でも話せる先生や友達がいるから
勉強は苦手だけど、本を読めるし、友達もいるから
勉強で特に理科の授業（特に化学・電流）が大好きで予習を家でしたくなるから。生活は下級生上級生と話すことが楽しいから
勉強が好きじゃないから
不自由ない学校生活がおくれている。

**「どちらともいえない」**
普通だと感じるから
つまらないから。持久走などがいやだから。（勉強も）
友達と話しているときは楽しいけど、一人だとつまんないけど一番楽
疲れるから
時間が忙しく、全てにおいて忙しいので
いじめが勃発しているため

**「どちらかといえば楽しくない」**
友達ができず一人でいることが多い。勉強に追いつけない。耳がひびく。教室が怖くなるときがある。人と話すのが怖くなるときがある。本当は明るく行きたいけど、本当の自分を出せなくて苦しい。
何かにしばられて好きなことができなかったりして苦しい。それと宿題があるせいでなにかにとらわれている気がして死にたくなるし自由なことできない
転校してきたから前の学校の友達に会えない
コロナ渦ということもあるけど制限の範囲が広かったり、人とのコミュニケーションが取りずらく、あまり楽しいと思えないから。

**「まったく楽しくない」**
普通に楽しくない
緊張するから。

仲のいい友達がいない

## 高校

**「とても楽しい」**
勉強も友達関係も充実していて毎日楽しいから
話しかけてくれる人がけっこういるから。
仲のいい友達がいるから。

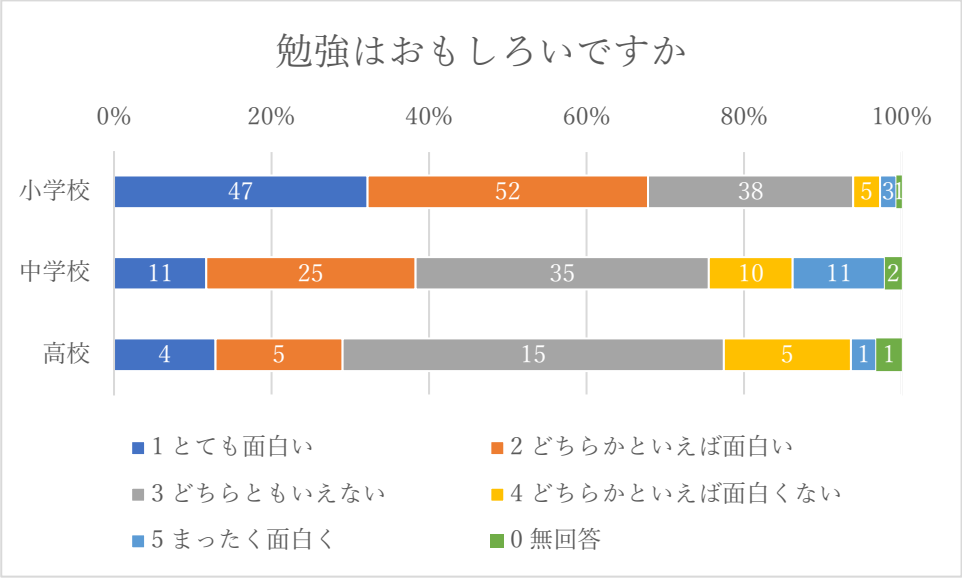
**「どちらかといえば楽しい」**
苦手な人と話すときは精神的負荷がある
少し不安なこともあるが、友達や先生がいるから。
工業の授業が好き。
自由にできる時間が多くなり、好きなことに集中できるから
高校生活最後ということもあって卒業旅行の話とかで盛り上がったりできるから
部活

**「どちらともいえない」**
引っ越したため休学中
なかなか思い通りにいかないため

**「どちらかといえば楽しくない」**
行くまでがめんどくさい。学校は楽しくない。
友達だと思っていた人に裏切られた。
学校は楽しいが、部活がつらく辞められないのでものすごくしんどい。

**「まったく楽しくない」**
仲のいい人がいないから

## （２）学校の勉強はおもしろいか



## 【理由】

### 小学校

**「とても面白い」**
先生がわかりやすく楽しく教えてくれるから
いろいろなことを知れる。発見できる。
みんなと考えられて楽しいし、解けたら嬉しいから
先生が色々な工夫をして教えてくれるからです。
勉強があまり好きじゃないから。わかると「できた」という感情がわいてくる。
友達と勉強ができるから
答えがない問題などがあるから

**「どちらかといえば面白い」**
難しい問題があるとわからないこともあるから
おもしろいこともあるけどわからないことがたくさんあるから。
国語に文章を書いて本にするのが好きだから。
勉強が苦手だが、先生の教え方が面白い。(わかりやすい)
授業は楽しいが、うるさい人が多くて集中できない。
音読とか面白い話が読めるから。
色々な発見があるから。
先生が一方的に言うのでどちらかというとにしました。
考えれば面白い。
答えを見つけることが楽しい。
先生が丁寧だから
新しことを知れるのが成長に繋がると思うと嬉しいから

**「どちらともいえない」**
苦手な教科は面白くないけど好きな教科は面白いから。
支援教室にいるときは少人数で楽しく勉強できるけど、交流級は 40 人もいるからうるさい。
難しくなってきているから
あまり勉強が、好きではない

**「どちらかといえば面白くない」**
パズルとかが楽しい
苦手だから。
つまらないから。
計算がめんどくさいから。

**「まったく面白くない」**

### 中学校

**「とても面白い」**
友達が教えてくれる
話を聞くとなるほどと感じる
理科・英語がすごくわかりやすくてもっと自分でできるように予習したくなるから。
先生の授業の教え方もわかりやすく、班のみんなで、共同して楽しく勉強するのが、学校に来るとか、一番楽しみだから。

**「どちらかといえば面白い」**
パソコンを使っての授業があったり、体育や総合など好きな科目があるから
授業の雰囲気がいいから。
理解できるとおもしろいけど、難しい問題は時間がかかるから
知識として活かすことができるから。
おもしろいけど、わからない所が出てくるから

**「どちらともいえない」**
難しいから。あまり勉強が得意ではないから
先生がこわいから（社会・体育）
先生の言っていることがわからない。
中学生の勉強は難しいから。
点数が足りない。
ただすすめている

**「どちらかといえば面白くない」**
わかるところはわかるけど、わからないところがあったりすると先生にも友達にも聞きにくい。
緊張するから。
分かりやすくて、いいとは自分では思うのにやるきもでなくて考えることが嫌で、何もできない。
集中できない。
わかりきったことをくどくど言うから。
先生が、嫌でも指名してくる。分か
らなくても言わないといけないから。
勉強に関心がないから。

**「まったく面白くない」**
勉強が全くわからない。
つらい

## 高校

**「とても面白い」**
分からないところもしっかり考えれば理解できるということが楽しいから
みんなと勉強できるから。
パソコンと数学が楽しいから。
先生の教え方が上手でとてもわかりやすく、進級してからとても楽しくなった

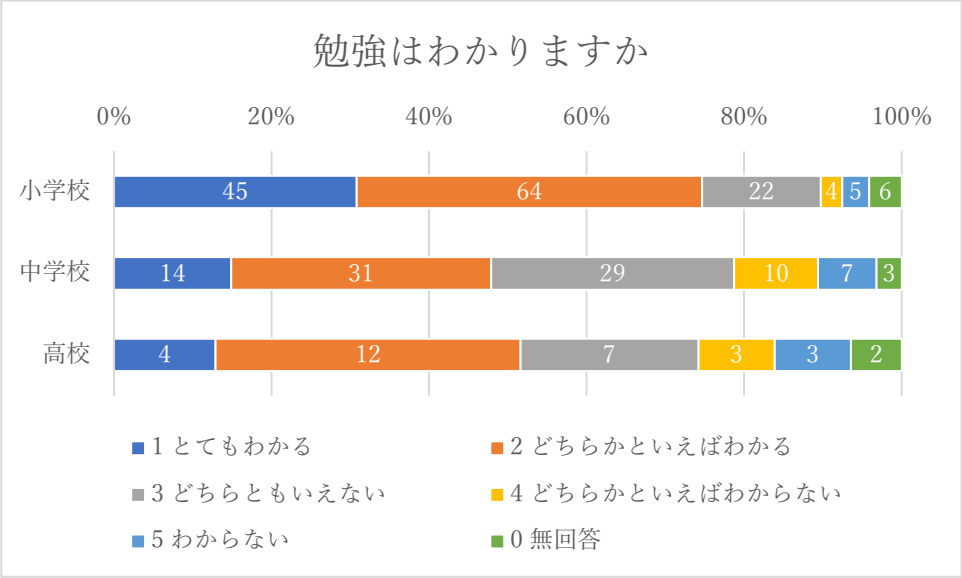
**「どちらかといえば面白い」**
色々なことを学べるから
教科によって、おもしろくないと思うこともあるから

**「どちらともいえない」**
好きでも嫌いでもないけど、ふつう
わからなくなる
隣の人と話し合うとかはいらない
大学へ行くためにしていることだから。

**「どちらかといえば面白くない」**
5 教科はついていけないし、先生に聞けない。家庭科が唯一楽しい。
今の勉学が将来に有用なものなのかが分からないため。

**「まったく面白くない」**
今までちゃんとしてこなかったから。

## （３）学校の勉強はわかるか




## 【理由】

### 小学校

**「とてもわかる」**
そもそも勉強が得意だし、分からなくてもすぐにわかるようになるから
よく考えてひらめくから。
九九女王になれたから。
算数の計算や先生が勉強で話していること、音読のお話の意味がよくわかる
先生が丁寧に教えてくれるし文や図でもあらわしてくれるから
教科書に載ってないこととか 6 年生になって使うことも教えてくれることがあるから。とてもわかると感じる。
周りが静かだから。
分からないところは先生に聞けるから

**「どちらかといえばわかる」**
いろいろな例や理由を教えてくれるから
少し難しいからです。
先生がちゃんと教えてくれるから
楽しくて工夫してくれている
先生は他人が発表するときに僕が理解できない時は先生が理解しやすくしてくれたから
分からないところは時間をかけてやってくれる
何回も間違えると答えややり方を教えてくれるから。
クラスの人数が少ないから。分からなかったらすぐに聞けるから。
家庭学習をしっかり頑張っているから
公文にいっているから
塾の教え方がわかるから

**「どちらともいえない」**
わかる教科もあれば、わからない教科もある。
休むとわからない。文章は苦手。
自信がないから
5 年生になって勉強が難しくなった。だけど、わかるところもある
先生が早口だから。
英語がわからない

先生による

**「どちらかといえばわからない」**
言っていることがあまりわからない。
先生の説明が難しいから。

**「わからない」**
よくわからないところがたくさんあるから。
ついていけないから。

## 中学校

**「とてもわかる」**
先生や友達に聞けるから
みんなで楽しく勉強できるから。

**「どちらかといえばわかる」**
基本は理解できているが、塾に通っている人だけが進めてしまうこともあって、ついていけていない気がするから。
ノートにまとめているから友達などにわからないところは聞いているから
キーポイント重要単語に着目して説明しているから
何か自分の中で「きょひ的はんのう（きょぜつ)」をだしているきがする。
そもそも勉強なんてしたくない
ストレスがたまって死にたくなるだけ
テスト勉強であまり困ったことがないから。
わからないところがあっても、先生や友達に聞いて納得できるから。

**「どちらともいえない」**
分かっているつもりだけど成績が良くない
わかる教科もあるけど、わからない教科もあった。
授業だけでは理解できないから
苦手な教科がわからないから
差別やばい。

**「どちらかといえばわからない」**
授業に出れたときはわかる方が多いけど、授業に出れなかったところはわからない。
理解ができていないから。
やる気が出ないから
理解するのに時間がかかるため、話を聞いていても理解ができない
わかるとこが少ない。
1 年生のときからあまり学校に行っていないから。

**「わからない」**
学校にあまり行ってないから
先生の言っていることがわからない。
難しい

## 高校

**「とてもわかる」**
先生が教えるのが上手だから

**「どちらかといえばわかる」**
テスト等の結果を出す場では、毎回満足のいく結果を得られるため
しっかり授業を受けていればわかる内容であるから。

**「どちらともいえない」**
休学しているため授業に参加していない
少しとまどっちゃうとわけがわからなくなる

**「どちらかといえばわからない」**

**「わからない」**
数学と国語と英語はわかるが、そのほかはわからない。
どんどん進んでいくから。何をいっているのかわからない先生が多い。
今までちゃんとしてこなかったから。

〈学校生活／勉強についての実感〉

問３（１）～（３）の「学校は楽しいか」「勉強はおもしろいか」「勉強はわかるか」の各項目の結果と理由（自由記述）から、以下の特徴が読み取れる。

①学校が「とても楽しい」「どちらかといえば楽しい」と回答する子どもの割合は、学校段階が上がるにつれ減少する傾向があるものの、半数以上は肯定的に回答している。また、その理由を見ると、共通して以下の３点が見られた。第一は、「友達と話しているといい気持ちになったり楽しく生活できるから」「みんなと一緒に勉強できるから」（小学校）、「友達がたくさんいるから」（中学校）、「仲のいい友達がいるから」（高校）といった友達との関係の充実である。第二は、「先生が優しいから」（小学校）、「何でも話せる先生や友達がいるから」（中学校）、「少し不安なこともあるが、友達や先生がいるから」（高校）といった教師との関係の充実である。第三は、「色々なことを知れる」（小学校）「勉強で特に理科の授業（特に化学・電流）が大好きで予習を家でしたくなるから」（中学校）、「勉強も友達関係も充実していて毎日楽しいから」（高校）といった学校での学習の充実、である。またこの他に、「こまっているときに助けてくれるし問題やわからないところを助け合う学校だからです」（小学校）や「話しかけてくれる人がけっこういるから」（高校）のように、学校の雰囲気の良さを指摘するものも見られた。

②一方で、例えば、「同級生の存在が怖い。何を考えているのかわからない。突然冷たいことを言われる。言われたことがあり、不登校になっている」（小学校）、「友達ができず一人でいることが多い。勉強に追いつけない。耳がひびく。教室が怖くなるときがある。人と話すのが怖くなるときがある。本当は明るく行きたいけど、本当の自分を出せなくて苦しい」「仲の良い友達がいない」（中学校）、「仲のいい人がいないから」（高校）のように、友達との関係が良好でないと感じている子ども、「先生が誰かに怒ってたら皆に八つ当たりをするから」（小学校）のように教師との関係が良好でないと感じている子どもは、「どちらかといえば楽しくない」「楽しくない」と回答する傾向が見られる。

③「勉強はおもしろいか」については、「学校は楽しいか」に比べると中学校・高校では肯定的に回答する割合が低く、「どちらともいえない」の回答の割合も多くなっている。しかし、「学校は楽しいか」と同様に、教師の存在（教え方の工夫等）、友達の存在（教えてくれるなどの関係）、学校での学習の充実、を感じているものは、肯定的な回答をする傾向が見られた。教師の存在については、例えば、「先生がわかりやすく楽しく教えてくれるから」「先生が色々な工夫をして教えてくれるから」

（小学校）、「理科・英語がすごくわかりやすくてもっと自分でできるように予習したくなるから」（中学校）、「先生の教え方が上手でとてもわかりやすく、進級してからとても楽しくなった」（高校）など教師の指導の工夫に関する記述が多く見られた。友達の存在については、例えば、「みんなと考えられて楽しいし、解けたら嬉しいから」「友達と勉強ができるから」（小学校）、「友達が教えてくれる」「先生の授業の教え方もわかりやすく、班のみんなで、共同して楽しく勉強するのが、学校に来るとか、一番楽しみだから」（中学校）、「みんなと勉強できるから」（高校）など友達の支援や協同的な関係に関する記述が見られた。学習の充実では、例えば、「いろいろなことを知れる。発見できる」「新しことを知れるのが成長に繋がると思うと嬉しいから」（小学校）、「パソコンを使っての授業があったり、体育や総合など好きな科目があるから」（中学校）、「色々なことを学べるから」（高校）など知的好奇心や自分の可能性の広がりを感じていることが、「おもしろい」という意欲と結びついていることをうかがわせる記述が見られた。

④一方で、教師の存在、友達の存在、学校での学習の充実について否定的に感じている子どもは、「学校は楽しいか」と同様に、「どちらかといえばおもしろくない」「全くおもしろくない」と回答する傾向が見られた。例えば、「先生が、嫌でも指名してくる。分からなくても言わないといけないから」「わかるところはわかるけど、わからないところがあったりすると先生にも友達にも聞きにくい」（中学校）、「5教科はついていけないし、先生に聞けない。家庭科が唯一楽しい」（高校）や「つまらないから」（小学校）、「勉強に関心がないから」「勉強が全くわからない」（中学校）、「今の勉学が将来に有用なものなのかが分からないため」（高校）などである。

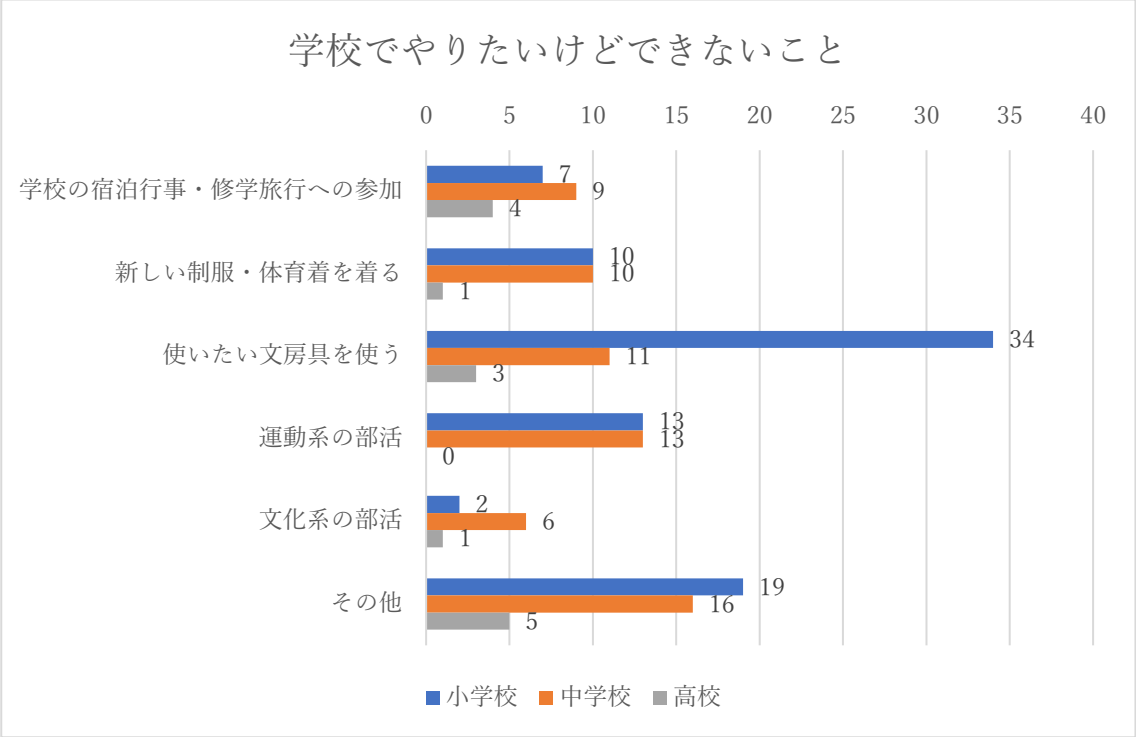
⑤「勉強はわかるか」については、「勉強はおもしろいか」よりは若干肯定的な回答が多く見られる。そして、小学校と高校では、「先生が丁寧に教えてくれるし文や図でもあらわしてくれるから」「分からないところは時間をかけてやってくれる」「分からないところは先生に聞けるから」（小学校）、「先生が教えるのが上手だから」（高校）など教師の指導・支援が、中学校では、「みんなで楽しく勉強できるから」「わからないところがあっても、先生や友達に聞いて納得できるから」など教師・友達の支援が肯定的な回答の理由として挙げられる傾向がある。

⑥一方で、例えば、「先生の説明が難しいから」（小学校）、「先生の言っていることがわからない」（中学校）、「どんどん進んでいくから。何をいっているのかわからない先生が多い」（高校）のように、教師の指導・支援が十分でないと感じている場合は、否定的な回答が見られた。また、「1年生のときからあまり学校に行っていないから」「学校にあまり行ってないから」（中学校）、「今までちゃんとしてこなかったから」（高校）のように、中学校・高校では、学習の積み残しによって「わからない」と感じているという回答も見られた。

このように、学校生活／勉強についての実感については、友達の存在、教師の存在、学習の充実の3つが左右している傾向があることが分かる。学校での教師や友達との関係の充実や教師の指導の工夫による分かる授業・楽しい授業によって学校生活への参加や学習意欲が引き出されており、食糧支援を受けている子どもたちにとって、学校は大切な場所であると言える。

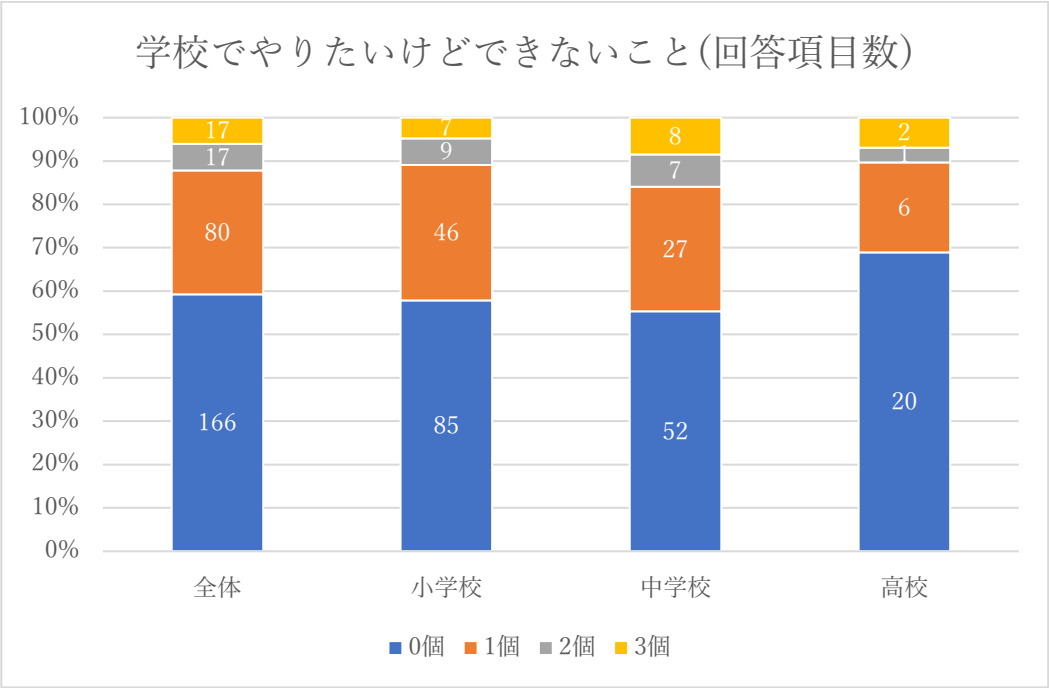
## （４）学校でやりたいと思うけれど、実際にはできないこと（複数回答可）

### ア．やりたいけれどもできないこと

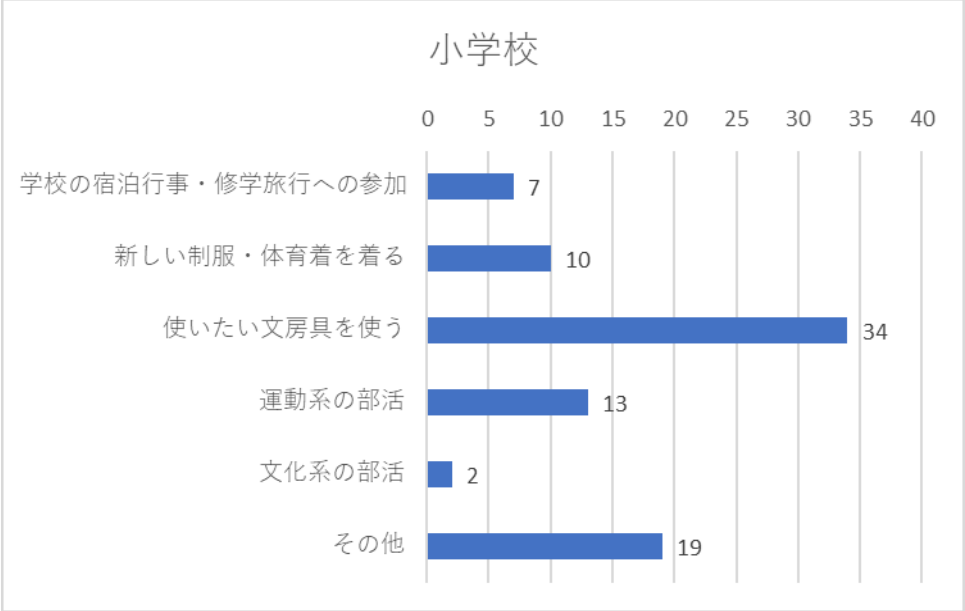



### イ．回答項目数について

| | 0個 | 1個 | 2個 | 3個 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 全体 | 166 | 80 | 17 | 17 | 280 |
| 小学校 | 85 | 46 | 9 | 7 | 147 |
| 中学校 | 52 | 27 | 7 | 8 | 94 |
| 高校 | 20 | 6 | 1 | 2 | 29 |
| 特別支援学校 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 |




## ウ．学校でやりたいけどできないこと（小学校）




**【小学校】**

〈記号未記入〉
・野球の道具が欲しい

〈学校の宿泊行事・修学旅行への参加〉
・多分コロナで中止になるかもしれないから。
・新しいかばん

・肝試し
・6年生しかできないけど、1～5年生もいきたいと思ったから。

〈新しい制服・体育着を着る〉
・体育着が小さくなってもすぐには頼んでも買えない
・もらった制服で新しい制服が買えなかった。
・学校が制服とかがないから着たい。
・おさがりで何回も直してあるあとがあるから
・いつももらった服だから新しいのがほしいです。
・いつもお母さんが知り合いから体操服もらってくる
・新しい制服だと気分が上がるから。

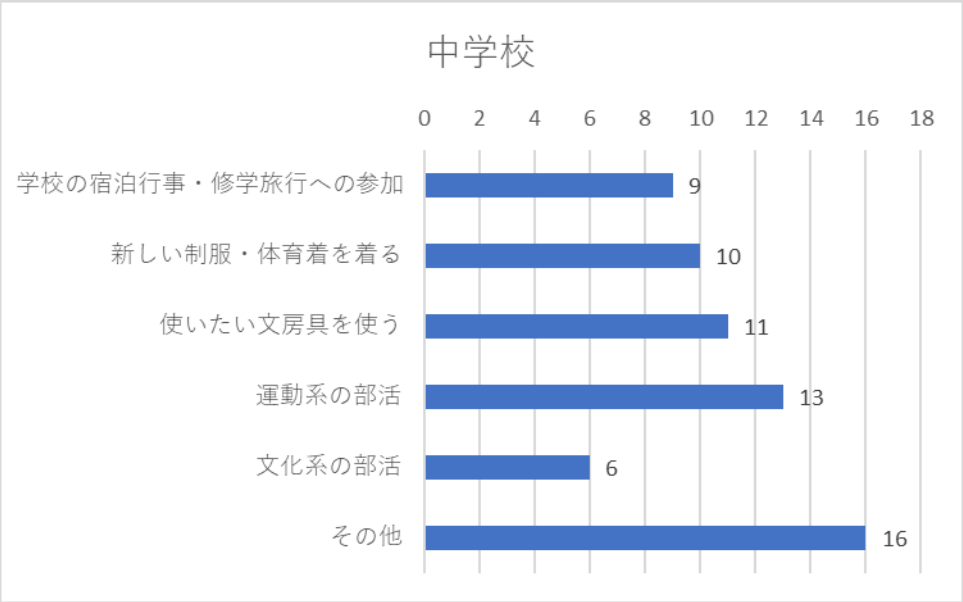
〈使いたい文房具を使う〉
・買いたい文房具を買えていないから。
・書きやすいものがあるから。
・習字道具とか絵具道具が買ってもらえなかった。
・裁縫セットが買えない。
・鉛筆削りがちゃんとしたのがほしいです。
・みんなが持っている物がかわいくて使いたい。
・定規とか自由にしてほしい。
・キャラがかいていったりするとダメと先生に言われる(ルールだから)。
・かわいいものがあったら授業中によくわかってかわいいから。
・いっぱいの文房具の使い方がわかるけど、買えない。
・新しい文房具が欲しい

〈運動系の部活〉
・ドッチボール
・じゃんけんに負けて好きなクラブに入れない
・サッカーの部活に入りたいけど入れない。
・運動が上手にできると思っているのに、部活に入れない。
・家の事情で通えないこと。

〈文化系の部活〉
・あんまり仲良くない子がいるかもしれないから。

〈その他〉
・飼育
・まだ仲良くない子がいるし、仲良くなりたい。みんなと給食を黙って食べるのではなく、しゃべって食べたい。
・パソコンを使いたいのに好きなときに使えない
・スポーツブランドの服が着てみたい。
・ゲーム機を持ってきてみんなでやりたい。プログラミングに少しゲームの要素（マインクラフトとか）を入れてほしい。学校（校舎内）で逃走中をしたい。
・学校のみんなと遊ぶ。プールを夏だったらいつでも使える。宿題なし。
・足が痛いので、運動が思っているほどできない。

## 3．学校でやりたいけどできないこと（中学校）




〈記号未記入〉
・みんなと同じものを買う余裕がない。

〈学校の宿泊行事・修学旅行への参加〉
・コロナがあって行事が縮小されてしまうから
・楽しそうだけど、話したことがあまりない人と一緒にいるのは難しい。
・文化祭が無くなった。

〈新しい制服・体育着を着る〉
・お金がない。
・おさがりだし、金がかかるから。
・ジャージが高い。
・ズボンの制服
・冬の体育着をがまんしてる　たかいから

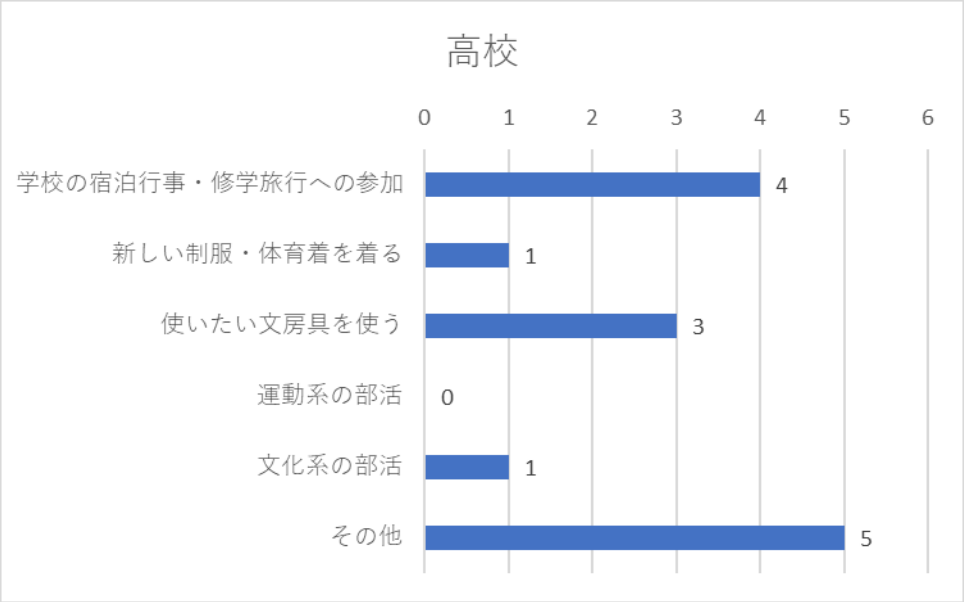
〈使いたい文房具を使う〉
・いろいろなトラブルがあってお金に余裕がない。
・シャーペンがあまり買えない
・きれいな匂い付きの消しゴム。
・タブレットがない。
・ほしい文房具があるから。
・みんなが持っている文房具が買えない。今はやっている筆箱など。

〈運動系の部活〉
・運動系したいけど、精神もたないと思う。
・体力が続かない。
・テニスラケットがほしいけどほしいものはたかい
・人間関係が難しい。
・みんなの足を引っ張るかもしれないから。
・運動系の部活で、自分だけ出来なかったら恥をかくのが嫌だから。チームを作る時自分だけ余って嫌な思いをするから。

〈文化系の部活〉
・美術部がないから
・必要以上に人と関わりたくないから
・みんながもっているものを買えない
・文化系の部活は入りたいとは思った。けど、自分に出来る部活がなかった。

〈その他〉
・友達とずっと話していたりたくさんコンピューターとか心理学のこととか体そうをしたい…
・給食を班で食べたい（コロナで前向き）
・そもそも…宿題とかてい出物とか…あるからしたいことも考えているひまなんてないし、考えることすら嫌になる。
・やりたいことがない
・問題の解き方を忘れてしまう

## 4．学校でやりたいけどできないこと（高校）




〈学校の宿泊行事・修学旅行への参加〉
・下の学年や他の学校は修学旅行に行けているのに自分たちだけ行けてない

〈新しい制服・体育着を着る〉
・貸し出しをしてくれているので、３年間借りて制服を着ている

〈使いたい文房具を使う〉
・欲しい文房具の色を揃えたいけど買ったら高額になるから
・韓国が好きで、それっぽいものを買いたいけど、お金の無駄だと思い、貯金してしまう。

〈文化系の部活〉
・できる気がしない。

〈その他〉
・ノートとルーズリーフがない。

・調理学習が前のようにできない。
・スマホを授業で使いたい。わからないところを誰にも聞けないから。スマホで調べて授業についていきたい。

〈学校生活でやりたいと思うけれどできないこと〉

問３（４）では、全体の約６割は学校では不自由を感じていない一方で、４割の子どもは「やりたいと思うけれどできないこと」が「ある」と回答している。また、そのうち約１割は複数個挙げており、中学校が他の学校段階と比べて若干多い傾向が見られる。

全体としては、多い順に「使いたい文房具を使う」48名（小学校34名、中学校11名、高校３名）、「その他」40名（小学校19名、中学校16名、高校５名）、「運動系の部活」24名（小学校11名、中学校13名）、「新しい制服・体育着を着る」21名（小学校10名、中学校10名、高校１名）、「学校の宿泊行事・修学旅行への参加」20名（小学校７名、中学校９名、高校４名）、「文化系の部活」９名（小学校２名、中学校６名、高校１名）であるが、学校段階によって若干、順位は異なっている。

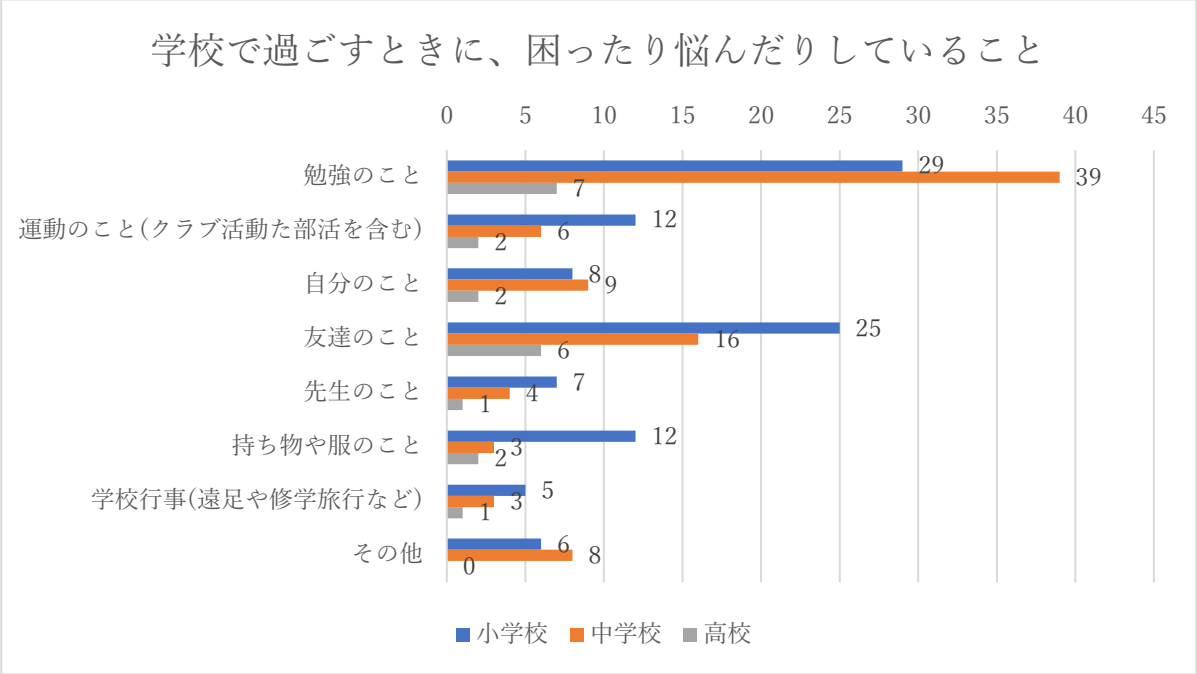
具体的な内容を見ていくと、「使いたい文房具を使う」「新しい制服・体育着を着る」以外の項目では、学校の条件（部活動の有無）やコロナによる学校活動の制限によって「やりたいと思うけれどできないこと」を挙げている傾向が読み取れる。しかし、学校の宿泊行事・修学旅行への参加では、「新しいかばん」（小学校）、運動系の部活では、「家の事情で通えないこと」（小学校）「テニスラケットがほしいけどほしいものはたかい」（中学生）のように、家庭の経済的事情で活動への参加が制限されていると思われるか回答もあった。

「使いたい文房具を使う」「新しい制服・体育着を着る」については、経済的理由により、我慢している様子が回答から伺えた。「使いたい文房具を使う」では、「買いたい文房具を買えていないから」「習字道具とか絵具道具が買ってもらえなかった」「裁縫セットが買えない」「鉛筆削りがちゃんとしたのがほしいです」「みんなが持っている物がかわいくて使いたい」（小学校）、「いろいろなトラブルがあってお金に余裕がない」「シャーペンがあまり買えない」「みんなが持っている文房具が買えない。今はやっている筆箱など」（中学校）、「欲しい文房具の色を揃えたいけど買ったら高額になるから」「韓国が好きで、それっぽいものを買いたいけど、お金の無駄だと思い、貯金してしまう」（高校）という回答があった。また、「新しい制服・体育着を着る」では、「体育着が小さくなってもすぐには頼んでも買えない」「おさがりで何回も直してあるあとがあるから」（小学校）、「おさがりだし、金がかかるから」「冬の体育着をがまんしてる　たかいから」（中学校）、「貸し出しをしてくれているので、３年間借りて制服を着ている」（高校）という回答があった。

この他、「その他」等で、「野球の道具が欲しい」（小学校）、「ノートとルーズリーフがない」（高校）との回答もあった。これらも経済的な事情が背景にあるものだと考えられる。

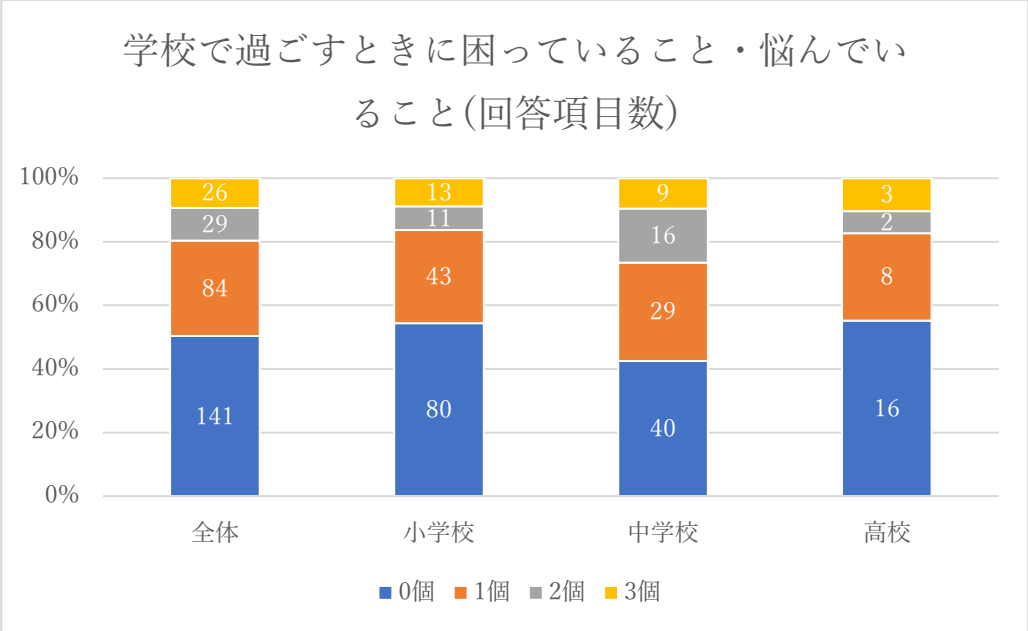
## （５）学校で過ごすときに、困ったり悩んだりしていること（複数回答可）

### ア．困ったり悩んだりしていること

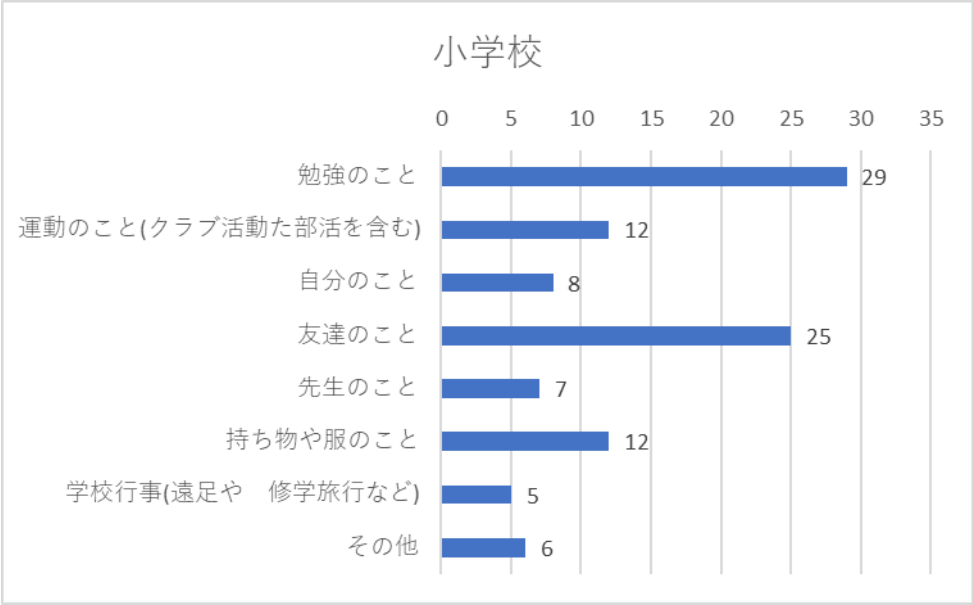



### イ．回答項目数について

| | 0個 | 1個 | 2個 | 3個 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 全体 | 141 | 84 | 29 | 26 | 280 |
| 小学校 | 80 | 43 | 11 | 13 | 147 |
| 中学校 | 40 | 29 | 16 | 9 | 94 |
| 高校 | 16 | 8 | 2 | 3 | 29 |
| 特別支援学校 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 |




## ウ．小学校




〈記号未記入〉

・発表が苦手で、うまくはなせない

〈勉強のこと〉
・先生の言っていることが少しわからなくて、勉強がわからない。
・最近勉強が分からなくなっている。
・わからないことが多かったから
・算数の勉強が苦手だから。
・算数がわからない
・難しいから悩んでいる
・休んだらわからなくなる。文章問題、作文が苦手。

・わからない問題があったら、先生に教えてもらえない。
・答えが答えられないとき。
・少し馬鹿にされている気がする。
・テストが難しい。
・勉強があまりできない
・人の話を聞く力がないので、集中して聞けずに困る。
・相手がおれの方が頭いいとあおってくる。

〈運動のこと〉
・トラウマを無理やりされる。
・体育が得意じゃない
・運動が苦手で周りの友達ができるようになると不安になる
・足が悪いので、思ったほどできない。
・運動不足だから
・足が遅いと馬鹿にされる。

〈自分のこと〉
・態度が悪いし口答えするから、なおしたくて頑張ってるのに治せないこと。
・いつもやらかしたときに強く責められる。
・整理整頓ができない。
・ゲームのやり過ぎ
・勉強がわからないから、学校へ行く意味を感じない。
・自分は大丈夫なのかな？と思っている。

〈友だちのこと〉
・仲のいい友達とけんかしてしまうから。
・たまに友達とけんかして悲しくなる。
・友達のことを考えられていないから。
・友達の話についていけない。何を話していいかわからない。
・学校があれていて困っています。クラスの男子の悪口がひどいです。
・意地悪する子がいるから。
・うざくてあおりちらかしてくるからいやだ。
・友達とうまく付き合えない。
・気を遣う。
・いじめがある
・変な言葉をいったり無視されるからです
・上級生からいじめられる。
・仲の良い友達が不登校になっているから寂しい。

〈先生のこと〉
・クラスの先生が怒鳴ってこわい
・先生に注意されるから。
・宿題が多いのと体育の授業なくしすぎ。
・上級生からいじめられることが解決されない。

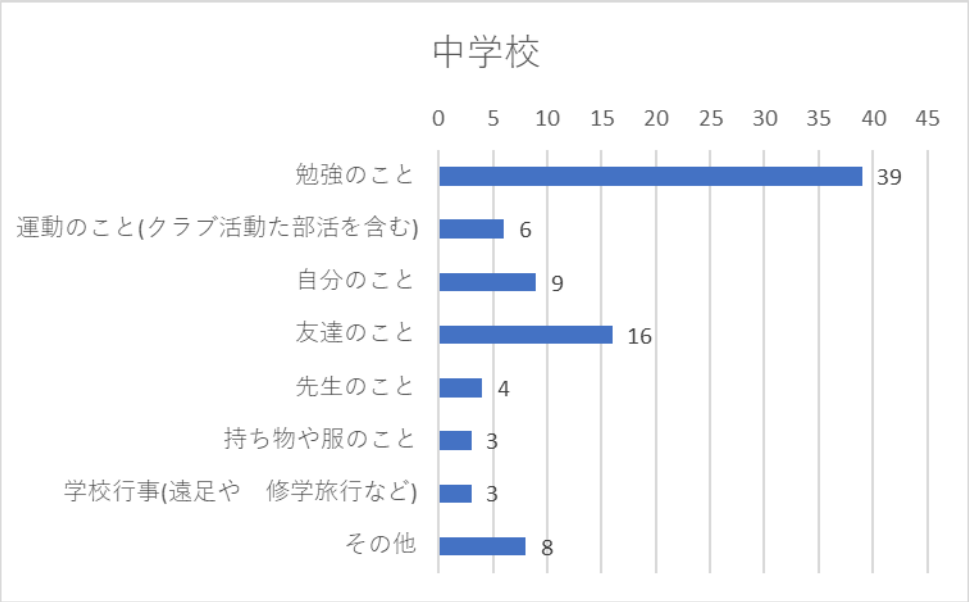
〈持ち物ものや服のこと〉
・あまり着ていく服がない
・よく忘れるから。
・忘れ物をしたと不安になる。
・自分の気に入っているものを着たり、付けたりしたい

〈学校行事〉

・運動会は半日になるし、夏祭りもなくなってしまったから。
・お母さんから離れるのが怖い。友達の輪の中に入るのが怖い。
・忘れ物をしないか。

〈その他〉
・忘れ物をしたくない。

## エ．中学校




〈勉強のこと〉
・勉強が難しくてわからない。
・授業を受けられないときに勉強がわからなくなってしまう。追いつけない。
・全然できない。
・ついていけない。理解できない。
・まわりに頭がついていくか心配
・好きになれない。
・できないって分かっててどれだけ何をしてもできなかったっていうことで、きらいな勉強のことできょぜつして泣いてしまう。
・授業の進みが早い。
・わからないとき聞きたいけど聞けない。
・授業を受けていても、先生はどんどん進んでいってしまう。(数学教師)教えてくれる人がいない。
・受験があるから
・来年は受験なのに、全然できなくて心配
・高校に合格できるか不安だから
・苦手な教科があるから
・成績が上がらない。
・あまり良い点がとれない
・通信票で毎回３をとってしまう。自分では真面目にやっているのに、結果がこれで終わるのがわかんない。

〈運動のこと〉
・運動部に入っているけど行けていない。

・休みがほとんどない時がある
・体力が無さすぎて困る

〈自分のこと〉
・嫌になってしまう。
・体力が平均より少ないので疲れやすく、学校を休み気味
・夜寝れなくて、朝起きられない。耳がひびく。悲しくないときに涙が出るときがある。
・思春期で体がむずむずする。
・気分屋で、したいことは、今すぐしたかったりがまんをできなくて自分がつらくなったりする。（わがままでどうしようもない寂しがり屋）
・自分の容姿や性格が嫌いで、学校では暗くなってしまう。
・体調や精神のくず休みたいときがあるが、勉強の遅れや成績に関わってくるので、休みにくい。

〈友だちのこと〉
・関わりにくいから。
・転校してきたから馴染めない
・喧嘩するとすぐ親が出てくる子がいるから。そのこの担任がその子の話だけ聞くからこっちの話を聞いてくれない
・友達が勝手に鞄の中などを あさったりするが 言えない。
・どうしたら仲良くなれるのか、どうしたら友達ができるのか。
・(友達が) いない
・コミュニケーションがとりずらく、いつも同じ人としか居れない。
・友達に気を使ってしまい、疲れる。
・めいわくをかけたり嫌がることしかできないから…もうどうもしたくないし、考えるとつらくていやだ…。
・友達にどう思われているかわからない
・友達の話についていけない。時々疲れる。
・最近友達が休んでばかりで一人になることが多い

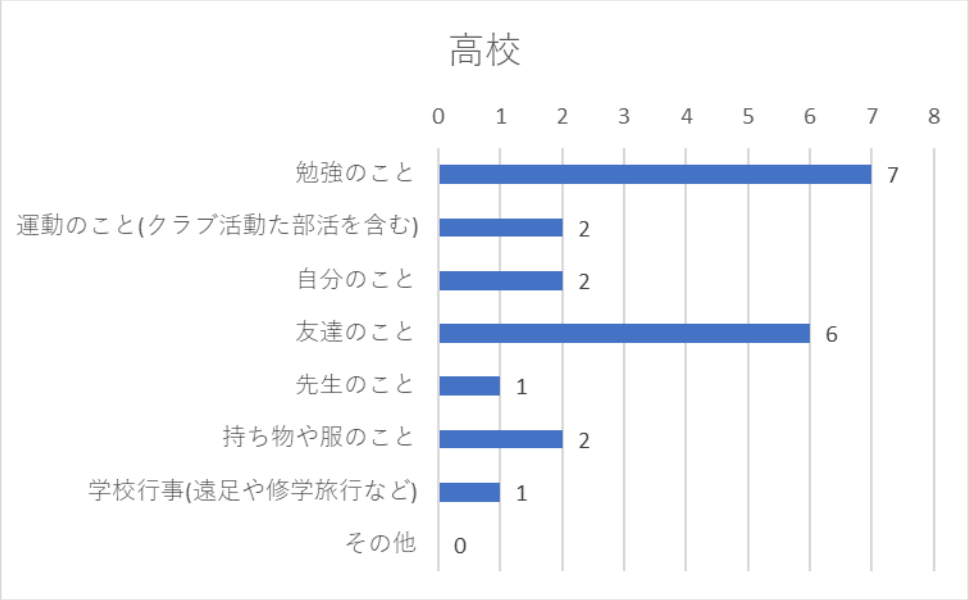
〈先生のこと〉
・余計な世話をしてくるし、えりを引っ張ったりなどクラスの人にしてくる。

〈持ち物ものや服のこと〉
・自由な服にしてほしい。

〈学校行事〉
・参加したくない
・部屋などを決めるときに遠慮してしまう。
・家に帰りたくなるので宿にとまるのがいやだ。

〈その他〉
・成績の順位が納得いかないこと
・髪の長さが肩につきそうになるとすぐに言われるけど他の人は言われていない
・荷物が 10 キロくらいあり重すぎる。

## オ．高校




〈勉強のこと〉
・大学に行くが学力が足りないから
・少しのことで悩んでしまう
・難しくてよくわからない。
・ほとんどの授業についていけず、勉強する意味がわからない時があるから。
・苦手なやつがある。

〈運動のこと〉
・部活を辞めたいのにスポーツ推薦で入ったから辞められなくて悩む。

〈自分のこと〉
・将来が不安
・進路について

〈友だちのこと〉
・うるさい。
・仲がいいときと悪いときがある。
・前にお金を取られたから信頼できない。
・名前と顔が覚えられない。
・友達がいない。
・今は楽しいけど友達とうまくいかない時は人間関係で悩んだ

〈先生のこと〉
・めんどくさいひとがいる。
・名前と顔が覚えられない。

〈持ち物ものや服のこと〉
・スカートの上からしかウォーマーを着れないこと。気持ち悪さをわかっていない。

〈学校行事〉
・運動系の行事など、運動が得意でもないのに得意な人と競わされる

〈困ったり悩んだりしていること〉

問３（５）では、全体の半数は、困ったり悩んだりしていることを挙げている。「やりたいと思うけれどできないこと」と同様に、中学校が他の学校段階と比べて若干多い傾向が見られる。

全体としては、多い順に、「勉強のこと」75 名（小学校 29 名、中学校 39 名、高校７名）、「友だちのこと」47 名（小学校 25 名、中学校 16 名、高校６名）、「運動のこと」20 名（小学校 12 名、中学校６名、高校２名）、「自分のこと」19 名（小学校８名、中学校９名、高校２名）、「持ち物ものや服のこと」17 名（小学校 12 名、中学校３名、高校２名）、「その他」14 名（小学校６名、中学校８名）、「先生のこと」12 名（小学校７名、中学校４名、高校１名）、「学校行事」９名（小学校５名、中学校３名、高校１名）という順となっている。小中高では、「勉強のこと」「友だちのこと」が上位であることは共通しているが、その後は学校段階によって順番が異なっている。

上位４項目についての内容を見ていくと、次のような傾向が見られる。

①「勉強のこと」について

先の問３（３）で学校の勉強が「わからない」「どちらかといえばわからない」と回答したものが 32 名（小学校９名、中学校 17 名、高校６名）であったが、「勉強のこと」を「困ったり悩んだりしている」と回答したのは 75 名であり、問３（３）の２倍以上多い結果となった。「わからない」ことが、子どもたちにとって深刻な悩みとなっていることが伺われる。

記述内容を見ると、「最近勉強が分からなくなっている」「休んだらわからなくなる。文章問題、作文が苦手」「わからない問題があったら、先生に教えてもらえない」（小学校）、「まわりに頭がついていくか心配」「授業を受けられないときに勉強がわからなくなってしまう。追いつけない」「わからないとき聞きたいけど聞けない」「通信票で毎回３をとってしまう。自分では真面目にやっているのに、結果がこれで終わるのがわかんない」（中学校）、「難しくてよくわからない」「ほとんどの授業についていけず、勉強する意味がわからない時があるから」（高校）のように、勉強が分からないこと、ついていけないことに関する記述が小中高に共通して多く見られた。特に中学校は、「わからない」「ついていけない」という記述が多く見られる。

また、中学校と高校では、「来年は受験なのに、全然できなくて心配」「高校に合格できるか不安だから」（中学校）、「大学に行くが学力が足りないから」（高校）のように、受験・進路に関する悩みや不安を述べるものもあった。

②「友だちのこと」について

「仲のいい友達とけんかしてしまうから」「友達の話についていけない。何を話していいかわからない」「友達とうまく付き合えない」「気を遣う」（小学校）、「友達の話についていけない。時々疲れる」「転校してきたから馴染めない」「どうしたら仲良くなれるのか、どうしたら友達ができるのか」「コミュニケーションがとりずらく、いつも同じ人としか居れない」「友達に気を使ってしまい、疲れる」（中学校）、「前にお金を取られたから信頼できない」「名前と顔が覚えられない」「友達がいない」（高校生）のように、友だち関係のトラブルや、関係の構築・維持に関わること（コミュニケーシ

ョン、友だちへの気遣いなど）を挙げるものが多く見られた。また、「めいわくをかけたり嫌がることしかできないから…もうどうもしたくないし、考えるとつらくていやだ…。」「友達にどう思われているかわからない」（中学校）といった悩みも挙げられていた。

これらの「友だちのこと」に関する悩みは、子ども・若者の成長過程で現れる問題であるとも考えられる一方で、経済的な理由から友だちと同じものを所有したり、共通の話題に関する情報を収集したりするなど、皆と同じことができないことから生じる否定的な感情や疎外感を抱き、悩んでいる可能性も考えられる（例えば、テス・リッジ『子どもの貧困と社会的排除』桜井書店、2010年など）。

③「運動のこと」について

運動のことについては、「体育が得意じゃない」「運動が苦手で周りの友達ができるようになると不安になる」（小学校）、「運動部に入っているけど行けていない」「体力が無さすぎて困る」（中学校）のように、運動が苦手であること、周りについていけないなど悩みが挙げられていた。また、「部活を辞めたいのにスポーツ推薦で入ったから辞められなくて悩む」（高校）のように、退部すると、授業料免除や奨学金の支給がなくなるという問題を抱えていないかという懸念を抱く回答もあった。

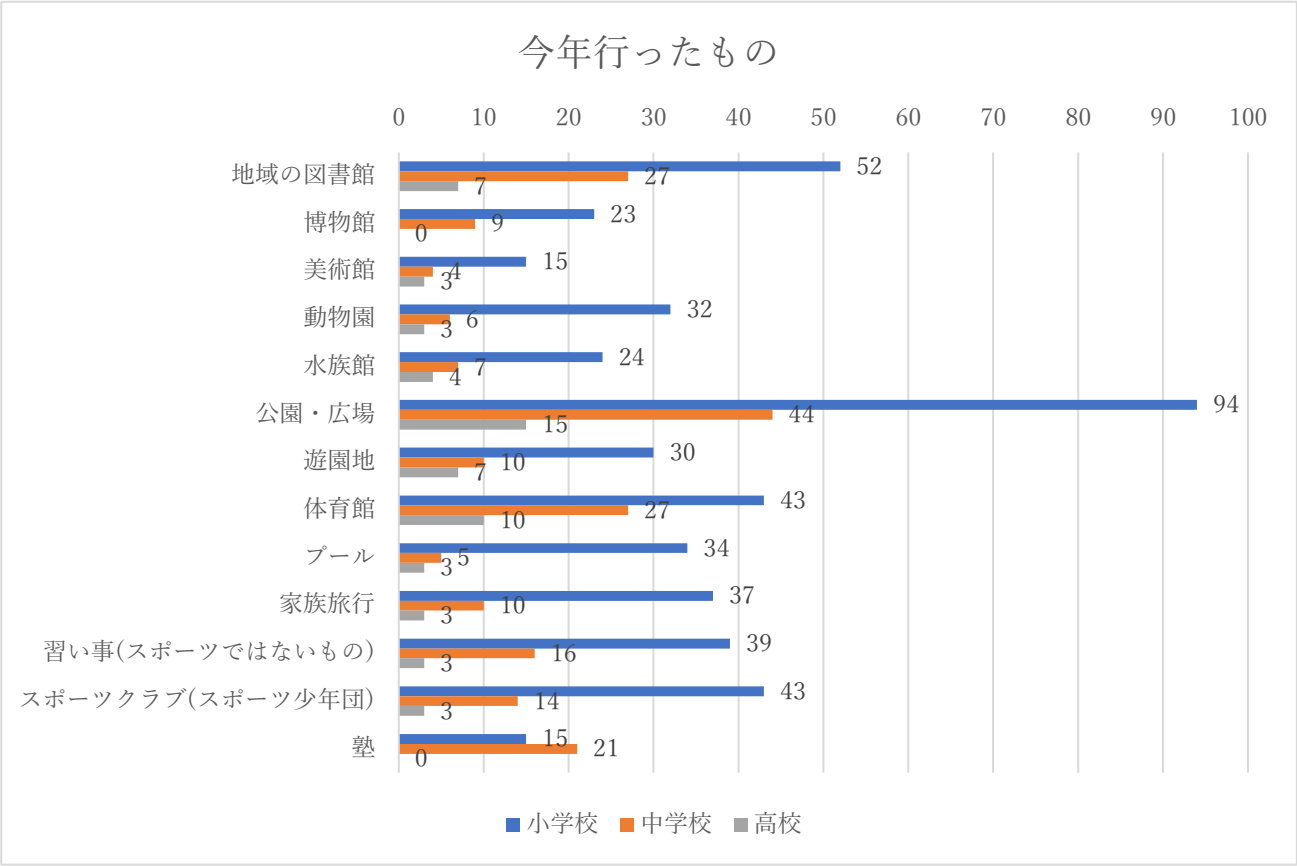
④「自分のこと」について

自分のことについては、「態度が悪いし口答えするから、なおしたくて頑張ってるのに治せないこと」（小学校）、「嫌になってしまう」「自分の容姿や性格が嫌いで、学校では暗くなってしまう」（中学校）のように、自分に対する自信のなさや自己肯定感の低さに関わると思われる悩みや、「勉強がわからないから、学校へ行く意味を感じない」（小学校）、「将来が不安」「進路について」（高校）など、進路や自分の将来に関わる悩み、また、「自分は大丈夫なのかな？と思っている」（小学校）、「夜寝れなくて、朝起きられない。耳がひびく。悲しくないときに涙が出るときがある」（中学校）など自己存在への不安を抱えていることを伺わせるものが見られた。

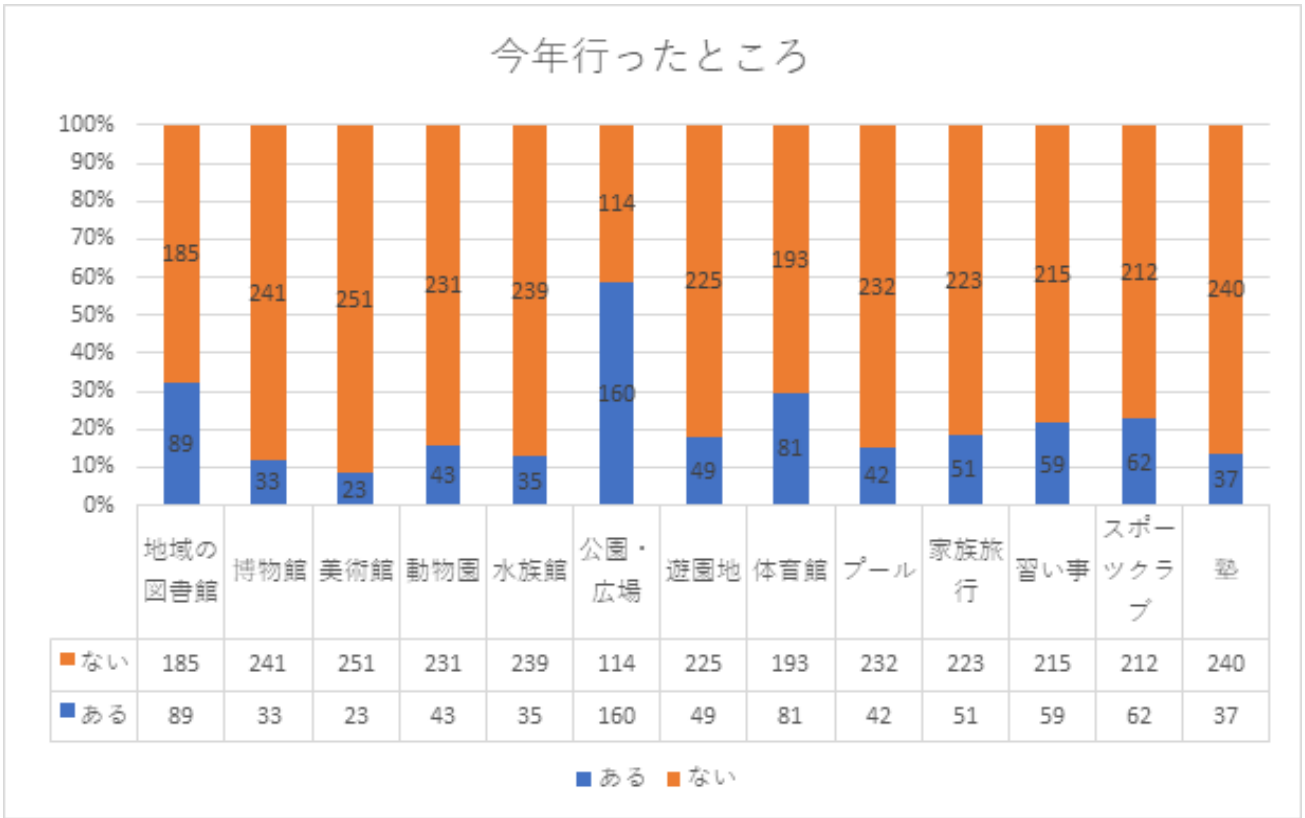
不安に関わっては、小学校では、「忘れ物をしたと不安になる」（「持ち物ものや服のこと」）、「忘れ物をしないか」（「学校行事」）、「忘れ物をしたくない」（「その他」）など、複数の項目で「忘れ物」に関する記述が見られた。これは、忘れ物に対する周りの厳しい目があるとともに、自分がちゃんとできるかという不安にもつながっている可能性があると考えられる。

## ４．学校以外の生活

### （１）今年行ったもの（複数回答可）



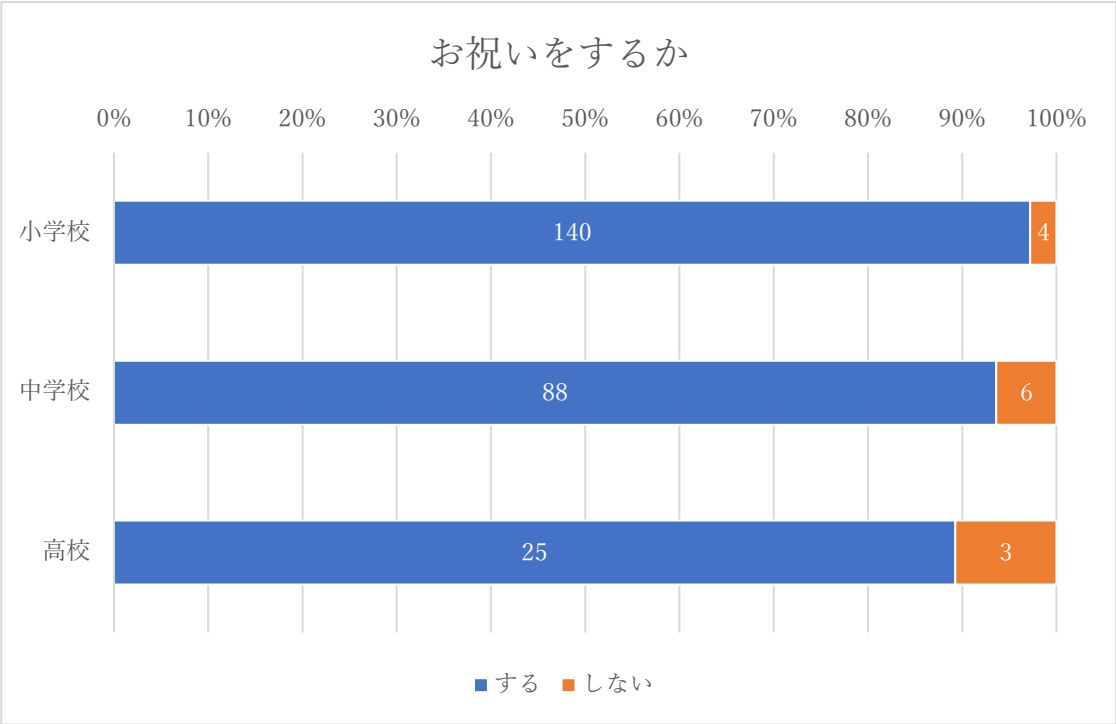

### 〈今年行ったところ〉



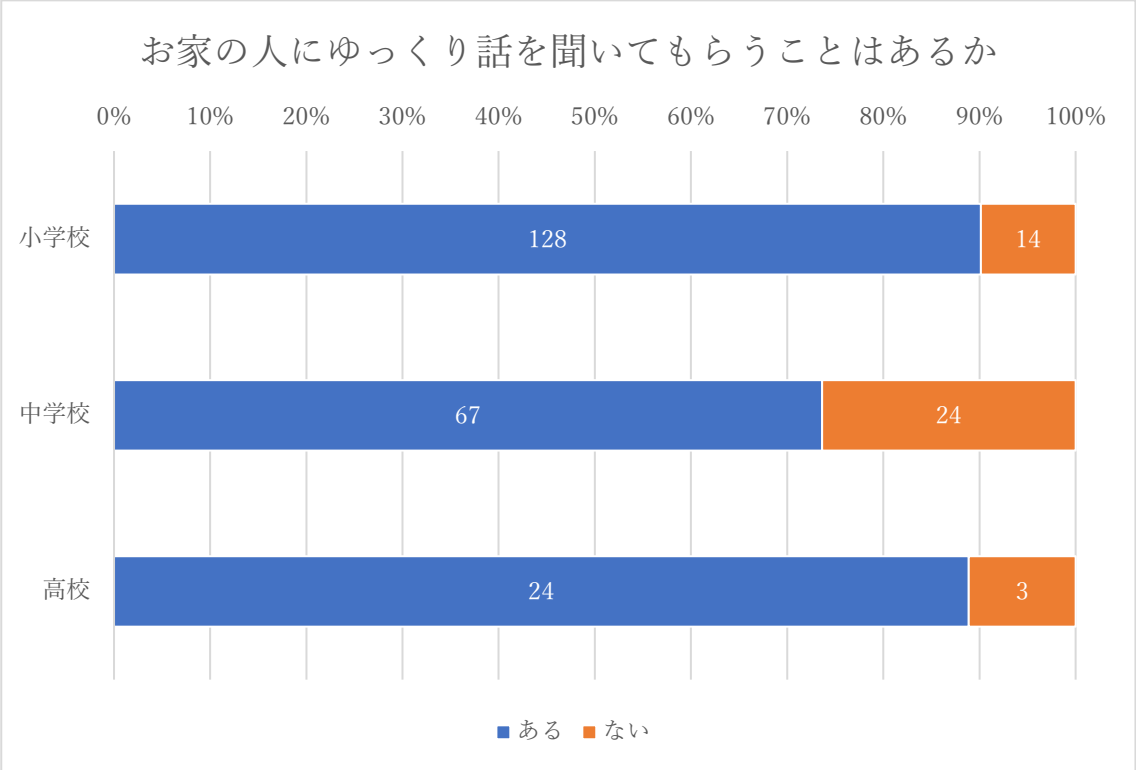
今年行ったところについての回答の全体を見ると、入場料等がかからない「公園・広場」が 60%と最も多く、次いで「地域の図書館」「体育館」が 30%前後、そしてそれ以外の場所は、「習い事」と「スポーツクラブ」を除いて 20%以下となっている。なお、「習い事」や「スポーツクラブ」や「塾」については、小学生が他の学校段階に比べて、行く機会があった子どもは多い。

上記の場所へ行く経験は、学校以外の場所で、知識や能力を伸ばしたり、自分の興味や関心、知的好奇心を育んだり、自分の能力や可能性を伸ばしたりする機会を持つことがどれくらいできたかということと関わる。他の調査との比較が難しいとはいえ、一部を除き多くの場所が２割程度であるのは、子どもたちが学校以外の場所で自分の持っている可能性を延ばすような機会や経験を十分に持てていない恐れがあるのではないかとの懸念を抱かせる。

## （２）誕生日・お正月・クリスマス・入学/卒業などをおうちの人と祝うか



## （3）自分の話をゆっくり聞いてもらえるか




〈イベントを家族と祝う〉〈自分の話を家族にゆっくり聞いてもらう〉

各学校段階とも、誕生日・正月、クリスマス・入学／卒業などのイベントを家族と祝うと回答した割合は９割を超える。特に小学校は 97.2%と最も多く、学校段階が上がるにつれてやや減少する。

これに対して、自分の話を家族にゆっくり聞いてもらう機会については、全体で８割程度が「ある」と回答しているが、小学校・高校がそれぞれ 90.1%、88.9%と約９割なのに対して、中学校は 73.6%と 15%以上の差がある。

ほとんどの子どもは、家族と過ごす特別な時間や自分の話を聞いてもらえる時間があると言えるが、どちらも「ない」と回答した子どもは、小学校１名、中学校２名であり、少ないながらも注意する必要がある。

## ５．大人や周りの人に言いたいこと

**〈記述から抜粋〉**

### ①　家庭の事情で十分でないもの（自分の部屋、寝るところ、おこづかいなど）

小学生　男　　"自分の部屋が欲しい　自分だけのベットが欲しい"
小学生　男　　自分の寝るところがほしい。
中学生　男　　自分の部屋が欲しい。
小学生　未回答　旅行に行きたい
小学生　男　　もっと自由になりたい
小学生　女　　お願いです。こども商品券は嬉しいですが、使えるところが近くにないので図書券にしていただけませんか。お願いします。
中学生　男　　おこづかいがほしい
小学生　女　　あつ森の有料コンテンツのハッピーホームパラダイスがほしい

### ②　大人への要望（教師に対して、親に対して）

**〈教師に対して〉**

小学生　女　　色々わからない話や色々教えてほしい。お菓子がいっぱいほしい。
小学生　女　　先生にもっとわかりやすく言ってと言いたい（勉強）。
小学生　女　　算数を少しだけ簡単にしてほしい
小学生　女　　宿題を少なくしてほしい
小学生　男　　色々な勉強を教えてもらいたいと思っている。
中学生　女　　先生うざい。
中学生　女　　しっかり私の意見も聞いてほしい。反対とかではなく、～したらどうかなど意見を加えることをしてほしい。いじめや先生からの暴力、暴言もしないでほしい。
中学生　女　　子ども扱いしないで一人の人としてみてほしいです。
高校生　答えたくない　　生徒の変化に気づけ。
高校生　女　　部活を辞めさせてほしいです。

**〈親・家族に対して〉**

小学生　男　　言い分を聞いてほしい（母親）
中学生　男　　～に行くか行かないか聞いといてむりに行かせる。（祖母）
小学生　男　　お母さんお仕事頑張ってね

### ③　不安・悩み・困っていること

小学生　男　　友達がうざくて煽り散らかしてくるので他の学校に転校させてほしいです。
小学生　男　　友達にいじめられるのが嫌だ
中学生　答えたくない　　宿題をなくしてほしい…。長期休みの宿題をなくして（少なくして）皆の時間をもっと多くたのしくすごさせてあげたい…そうすればストレスも…。男人にさせて、だれも関わらないで、誰のことも傷つけたくないの、だから近よらないで、僕にできないことをおしつけないで、もうやめて、誰もこないで、もういやだ。誰も傷つけたくないよ。寂しい……
中学生　女　　迷惑をかけてしまってごめんなさい。いつもありがとうございます。
中学生　女　　家族の病気を治したい

**④　周りに対する相反する思い（感謝と不信感・諦め）**

小学生　女　　おうちの人へ:いつもありがとう
小学生　女　　いつもありがとうございます。
小学生　男　　いつもみんな話を聞いてくれるから大丈夫です。
小学生　女　　わかんないけどはづかしいから。
中学生　男　　きたいしてない　言ってもムダ

〈大人に言いたいこと（自由記述）〉

問５「大人や周りの人に言いたいこと」には、52 名が記述している。記述の内容は多岐にわたっているが、①家庭の事情で十分でないもの、②大人への要望（教師に対して、親に対して）、③不安・悩み・困っていることなど、④周りに対する相反する思い（感謝と不信感・諦め）、などが読み取れる。

①家庭の事情で十分でないものについては、自分の部屋や自分専用のベット、こづかいや自由な時間、旅行など、経済的な事情によって制限されていることへの思いが読み取れる。

②大人への要望では、教師に対する要望が多く見られた。勉強ができるようになりたい・分かるようになりたいという思い（特に小学生）や、自分のことを気にかけて欲しいという思い（「生徒の変化に気づけ」高校生）、自分の思いを受け止め尊重して欲しいという思い（「言い分を聞いて欲しい」小学生、や「しっかり私の意見も聞いてほしい」「子ども扱いしないでひとりの人としてみて欲しい」中学生など）などが読み取れる。

③不安・悩み・困っていることなどについては、これまでの生活の中で深く傷つき、その傷付きを聞き取ってもらえないまま、強い自己否定的な感情を抱き、苦しんでいることを訴えてくる中学生の回答があった。また、友だち関係の悩みや、家族の悩みなどを周りに言えないでいるでのはないかと思われる回答もあった。

こうした傷つきの積み重ねは、④周りに対する相反する思い（感謝と不信感・諦め）とも結びついていると考えられる。「きたいしてない、言ってもムダ」のような周囲への不信感・諦めの声である。もちろん、それだけではなく、自分を支えてくれる親や周囲への感謝の声もある。

これらの子どもたちの声を読むと、まだまだ私たちが聞き取れていない子どもたちの声があるのではないかと考えられる。「言ってもムダ」という不信感だけでなく「迷惑をかけてしまってごめんなさい」などのように、周りに助けを求めること・支えてもらうことを押さえてしまう子どもの存在もあると考えられるからである。子どもたちの様々な思いや声を十分に受け止め、支援していけるようなネットワークの構築を考えていく必要があるだろう。

# 資料

## 回収方法説明
## 子どもアンケート票

# 「保護者アンケート票」と「子どもアンケート票」への回答に、ぜひご協力を！

**お子さんがいるご家庭のみなさまへ**

この封筒のなかに入っているアンケートは、お子さんのいるご家庭のコロナ禍における現在の状況をお伺いし、今後の支援につなげることを目的にしています。個人が特定されないようにして、報告書にとりまとめます。

**締切り：2022年1月7日（金）までに郵送**

保護者の方は
保護者アンケート票

アンケート票1枚目のQRコードでスマホでの回答もできます

小学3年生から高校3年生のお子様全員は「子どもアンケート票」にご記入ください

**保護者アンケート票**

①入れやすいように折ります
②そのまま宛名が明記された水色の封筒に入れます

**子どもアンケート票**

①ピンク封筒に入るように折ります
②最初にピンクの封筒に入れます
③次にピンク封筒を、宛名が明記された水色封筒に入れます

「保護者アンケート票」と「ピンク封筒」を入れたことを確認して、投函してください

# 【子ども用アンケート】

認定NPO法人フードバンク山梨 子どもの学習・生活に関わる調査
小学生・中学生・高校生向け調査 調査票

## 調査について

◆この調査は、みなさんの学校や家庭での学習・生活の様子、希望などについて聞くものです。
◆みなさんの家庭や学校には、難しい問題もたくさんあると思います。この調査は、こうした問題を解決し、みなさんの学習・生活環境を少しでも良くするために必要な取り組みを考えることに使います。みなさんのこれからのために、ぜひアンケートに協力してください。
◆この調査は、小学生・中学生・高校生のあなたが自分で書いてください。
◆名前を書く必要はありません。テストではありませんので、思ったとおりに答えてください。
◆答えたくない質問に答える必要はありません。
◆答えに迷う場合には、あなたの気持ちや考えにできるだけ近いものを選ぶようにしてください。
◆あなたが書いた内容は、おうちの人や先生に見せる必要はありません。
◆スマートフォン、タブレットで答えられる人は、下の QR コードから答えてください。
◆その他の人は、この紙に答えを書いて、返信用と書いてある封筒に入れ封をしてください。

## この調査のお問い合わせ先

◆調査への回答にあたってわからないことがありましたら、お問い合わせください。

認定NPO法人フードバンク山梨
電話　055-298-4844
住所　〒400-0214 山梨県南アルプス市百々3697-2

スマートフォン
タブレットの方
はこちらから回答
してください。

ここからは質問です

1．あなたについて教えてください。
・性別（○をつけてください　例　㊚・女…）　（男・女・答えたくない）
・学校種・学年（例　㊚・中…学校○年生）　（小・中・高・特別支援学校　　年生）
・一緒に生活しているきょうだいの人数を書いてください。　（　　人）と自分

2．今のあなたの学校から帰ってからの生活について教えてください。
（1）あなたは学校から帰ってから、どこで勉強することが多いですか。①②のどちらかに○をつけてください。
①自分の家　②自分の家以外

（2）（1）で②を選んだ人は、どこで勉強しているかを書いてください。

（　　）

（3）あなたが学校から帰ってから勉強をするときに、何か困っていることはありますか。

①～③の中から1つに○をつけてください。

①（どちらかといえば）ある　②（どちらかといえば）ない　③わからない

（4）「ある」を選んだ人は、どんなことで困っていますか。 困っていることを自由に書いてください。

（　　）

（5）あなたが、学校から帰ってから勉強するときのものについて教えてください。下の表のア～ケについて「ある」「ない」「足りない」のどれかに○をつけてください。

| | ある | ない | 足りない |
|---|---|---|---|
| ア．静かに勉強できる場所 | | | |
| イ．自分だけの机 | | | |
| ウ．えんぴつやノート、消しゴムなどの文房具 | | | |
| エ．自分一人で勉強をすすめるための参考書や問題集、ドリルなど | | | |
| オ．紙の辞書 | | | |
| カ．電子辞書 | | | |
| キ．パソコン・タブレット・スマホなどのインターネットに接続して調べられるもの | | | |
| ク．パソコンなどで調べたことを紙に印刷するプリンター | | | |
| ケ．宿題や学校の勉強で分からないときや困ったときに聞ける人（おうちの人、他の大人やきょうだい、友達など） | | | |

3．今のあなたの学校での生活について教えてください。

（1）学校での生活は楽しいですか。当てはまる番号を1つ選び、その理由を書いてください。

①とても楽しい　②どちらかといえば楽しい　③どちらとも言えない

④どちらかといえば楽しくない　⑤全く楽しくない

例 （番号 ② ）（理由　　仲のいい友達と話しているとき楽しいと感じるから。　　）

（番号　　）［理由　　］

（2）学校での勉強はおもしろいですか。当てはまる番号を 1 つ選び、その理由を書いてください。

①とてもおもしろい　②どちらかといえばおもしろい　③どちらとも言えない
④どちらかといえばおもしろくない　⑤全くおもしろくない

（番号　　）［理由　　］

（3）学校での勉強はわかりますか。当てはまる番号を 1 つ選び、その理由を書いてください。

①とてもわかる　②どちらかといえばわかる　③どちらとも言えない
④どちらかといえばわからない　⑤わからない

（番号　　）［理由　　］

（4）あなたが学校でやりたいと思うけれど、実際にはできないことがありますか。ア～カの中から特に当てはまるものを 3 つまで選び、その内容をくわしく書いてください。

ア．学校の宿泊行事・修学旅行への参加　イ．新しい制服・体育着を着る
ウ．使いたい文房具を使う　エ．運動系の部活　オ．文化系の部活　カ．その他

例 （記号 オ ）（内容　　みんなが持っているキャラクターの文房具が買えない。　　）

（記号　　）［内容　　］
（記号　　）［内容　　］
（記号　　）［内容　　］

（5）あなたが学校で過ごすときに、どんなことで困ったり悩んだりしていますか。ア～クの中から特に当てはまるものを３つまで選び、その内容をくわしく書いてください。

ア．勉強のこと　イ．運動のこと（クラブ活動や部活を含む）　ウ．自分のこと
エ．友だちのこと　オ．先生のこと　カ．持ち物や服のこと
キ．学校行事（遠足や修学旅行など）　ク．その他

（記号　）［内容　　］
（記号　）［内容　　］
（記号　）［内容　　］

４．あなたの学校以外の生活について教えてください。（１）～（３）について、当てはまるものに○をしてください。

（１）今年、あなたが行ったものをすべて選んでください。

ア．地域の図書館　イ．博物館　ウ．美術館　エ．動物園　オ．水族館
カ．公園・広場　キ．遊園地　ク．体育館　ケ．プール　コ．家族旅行
サ．習い事（スポーツではないもの）　シ．スポーツクラブ（スポーツ少年団）　ス．塾

（２）誕生日・お正月・クリスマス・入学/卒業などをおうちの人とお祝いしますか。

①する　②しない

（３）おうちの人に自分の話をゆっくり聞いてもらうことはありますか。

①ある　②ない

５．大人や周り（おうちの人、学校の先生、その他の人など）に言いたいことがあれば、自由に書いてください。

［　　］

質問はこれで終わりです。調査にご協力いただきありがとうございました。「返信用」と書いてある封筒に入れ、保護者に渡してください。